



Anchor アンカー



INSIDE

ニュースウォッチ 3

2018年秋セミナーで学んだこと 6

デビッド・ゲイツ VS マーク・フィンレイ 11

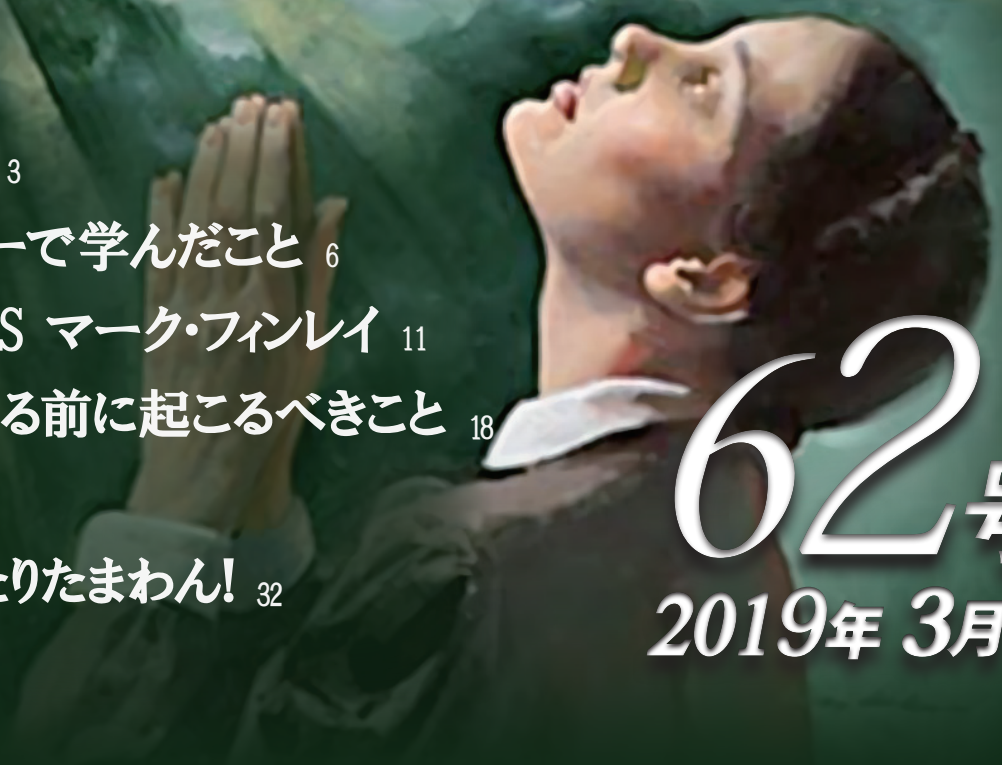
日曜休業令が出る前に起こるべきこと 18

奇跡の農場 30

やがて花婿、来たりたまわん! 32

62号

2019年3月



先のアメリカ大統領選挙で、ヒラリー・クリントンの勝利をほとんどの日本メディアと評論家が想定していた中で、国際政治学者の三浦瑠麗とジャーナリストの木村太郎がトランプの勝利を見事に言い当てていたことがあった。

その「三浦瑠麗が綴る2019年の論点」で「トランプによって『米国主導の世界秩序』が終わる」と言っている：

「2019年後半には本格化する大統領選挙シーズンを迎えることになります。分断が分断を呼ぶ、危険な政治ショーが延々と続くという展開です。…中でも、3つのテーマが世界と日本にとって重要となると思います。第1は、米中の経済関係の行方、第2は北朝鮮情勢、第3はイラン情勢です」。<http://bunshun.jp/articles/-/9922>

三浦氏は面白いことに「米国主導の世界秩序」と表現している。黙示録に書いてあるとおりである。が、世界秩序が終わるのではなく、1ドル紙幣にあるように、米国が主導して新世界秩序に向かうというのが、聖書の預言である。ここが世の評論家と聖書の視点が異なるところである。

ある記事に「欧米諸国でもこの『分断』がキーワード」とあった。社会の分断が深まりつつある中、キリスト諸教会、宗教界はバチカン主導の一致運動に向かっている。

しかし、最後の「女の残りの子ら＝レムナント」、セブンスデー・アドベンチストの中にも、一致の叫びと分断の憂慮が深まっている。最も顕著なところは、北米支部総会である。リベラル派と保守派の溝がだんだん深まっている。

初代文集437-440や5T76-84に、教会に二つのグループが発展することが描写されている：

- ① 深い信仰と内的苦悶の経験に入る者たち—少数の者
- ② この苦悶と祈りに加わらない、不注意で無関心で、教会に立ちこもる暗雲に抵抗しない者たち、証を無視、軽視する者たち—多数の者

「教会内に分断、分裂が起こるのであろう。二つのグループ(parties)が発展してゆく。麦と毒麦が収穫の日に向かつて一緒に成長するのである」2SM 114, 1896年。

「①教会の危機と沈下が最高の時、光に立っている小さな群れ(コンパニー)は、地に行われていることを嘆き悲しむ。しかし、彼らの祈りは教会員が世に従って歩んでいるために、彼らのために捧げられる。②魂の苦悩が哀願、涙の警告や譴責に表れる。③神の印は嘆き悲しむ者のみに押される」5T76-84(エゼキエル9章)。

しかし、それは間もなく、神がご自分のためにねたみを起こし、介入なさり完成された民を出現させる日が近づいていることを示している。多くのSDAはふるわれて後、キリストのみ像を完全に反映する麗しい教会となる。その時、神の民イスラエルは、「このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」(雅歌6:10)と言われるように、分断どころか、完全に一致した教会となる。

「我々は、第七の鉢が傾けられることについて学ぶ必要がある。悪の力は懸命なあがきをせずして、戦いを放棄することはないであろう。しかし、神はハルマゲドンの戦いで果たすべき役割を持っておられる。地が黙示録18章の天使の栄光で明るくされる時、善と悪との宗教的勢力は、まどろみから目覚め、生ける神の軍隊が出陣するであろう」MS 175, 1899年。



PROPHETIC 預言的 NEWS WATCH 時事ニュース

ローマ法王フランシスコ、11月訪日を明言！

2019年01月23日 22時33分

【ローマ=佐藤友紀】AFP通信によると、ローマ法王フランシスコは23日、年末に予定されている日本への訪問について、「11月に日本を訪問する」と明言した。外遊先のパナマに向かう特別機上で同行記者団の質問に答えた。

ローマ法王の来日は1981年のヨハネ・パウロ2世以来となる。法王は昨年12月、今年の年末にも広島、長崎を訪問する意向を表明しており、バチカンと日本の両政府が11月の訪日で調整を進めていた。<https://www.yomiuri.co.jp/world/20190123-OYT1T50108.html>

3人の「フランシスコ」



1. イエズス会のフランシスコ・ザビエルは、1549に来日して、日本植民地化に失敗→鎖国となる。



2016年5月12日バチカンでローマ法王フランシスコ(中央)を表敬された秋篠宮ご夫妻(共同)

2. 2019年11月、フランシスコ法王の訪日決定。



3. 迎えるはフランシスコ麻生

麻生太郎はカトリックで洗礼名はフランシスコ。黒田官兵衛の妹が嫁いだのが麻生家である。



フランシスコ法王と対面した湯崎長崎(県知事) オッセルヴァーレ・ロマーノ紙から日本メディアへの提供写真より)



前田万葉枢機卿



河野外務大臣も訪日を要請

1638年、幕府は第五次鎖国令を出し、ポルトガル船の来航を完全に禁止し、日本はポルトガルとの国交を断絶した。こうして江戸時代の最も代表的な政策である鎖国が完成した。

しかし、今になってなぜ、日本はローマ法王に求愛するのか？フランシスコ法王の訪日の狙いは何だろうか？



安倍総理もフランシスコ法王を招請

それについては、
次回の記事で取扱いた
いと思う。



前田枢機卿は12月23日、長崎新聞社の取材に応じ、訪日は「来年11月の後半になるのではないか」との見通しを示した。教皇は長崎で核兵器廃絶を訴える「平和アピール」を發表したい考えで、政治が果たすべき役割にも言及する可能性があるとして指摘。日本滞在は2泊3日～4泊5日程度が見込まれ、被爆地広島、東京も訪ねる予定。前田枢機卿は「日程次第では長崎なら外海地区、県外なら**原発事故があった福島、沖縄なども訪問先の選択肢になる**」と語った。

教皇は、原爆投下後の長崎で撮影されたとされる「焼き場に立つ少年」の写真と核廃絶に強い関心を寄せており、17日にバチカンで面会した前田枢機卿に対し「**長崎から平和アピールをしたい**」と語ったという。広島でも同様にアピールする可能性が高い。

長崎新聞は1981年2月23～26日に東京、広島、長崎を訪問した故ヨハネ・パウロ2世が、広島で核廃絶を訴える「**広島平和アピール**」を読み上げていることから、関係者の間には長崎からの平和アピール発信を期待する声がある、と報じた。

前田万葉は、ローマ・カトリック教会の聖職者、枢機卿。カトリック大阪大司教区の8代目・現任の大司教である。洗礼名は「トマス・アキノナス」。

フランシスコ教皇がアラブ首長国連邦（イスラム）で18万人のカトリック教徒のために歴史的ミサを実施

<https://www.businesswire.com/news/home/20190206005582/ja/>

2019年2月6日

アブダビのザイード・スポーツ・スタジアムで実施されたこの行事の規模は、アラビア半島でのこの種の行事で過去に例のないものとなり、アラブ首長国連邦各地と国外から何万人もの人が集まって参加した。



この行事では、1500人の救急隊員、警察、セキュリティー・スタッフが配置され、ミサに参加するカトリック教徒の安全とセキュリティーを確保した。

この行事に集まった数千人のためにアラブ首長国連邦の100人が配置されてゲートのセキュリティーを管理した。参加者の多くは、UAE、オマーン、イエメンを範囲とするカトリック教会の管轄区域である南アラビア使徒座代理区（AVOSA）との連携でUAE政府が手配した2000台のバスで来訪した。

世界のメディアも注目し、メディア600社の国際ジャーナリスト250人が教皇ミサを取材し、世界各地への生中継を行った。

聖下はポープモビルで到着し、ミサ会場のザイード・スタジアムの内外に集まった群衆に挨拶し、90分のミサを実施した。

来賓として、UAE環境大臣のシェイク・ナヒヤーン・ビン・ムバラク・アル・ナヒヤーン閣下、文化・知識開発大臣のヌーラ・アル・カービ閣下、その他の政府高官も参加した。

スタジアム内に特別に構築された壇上で行われた説教の中で、フランシスコ教皇はUAEのリーダーシップと国民に感謝の意を表して「ザイードの国のザイードの子供らに感謝します」と述べ、この言葉は多様な国籍者が入り交じった聴衆から熱烈な歓迎をもって受け入れられた。

ローマの外で行われる教皇ミサとして最も多様な国籍者が集まる機会の1つとなったことを反映し、この90分のサービスは、イタリア語、英語、アラビア語、タガログ語、ヒンディー語、韓国語で行われた。

ミサには、UAE内で生活や仕事をしている推定100万人のキリスト教徒のうち20%近くが参加した。

* 配信元：AETOSWire

ローマ法王フランシスコ、イスラム誕生の地で初のミサ！

「(海から上ってきた獣)その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い」黙示録 13:3。

ローマ法王教の傷は、ほとんど完治している。世界の称賛を集めている。

ローマ法王、混迷のベネズエラに「双方求めれば仲介も」



フランシスコ法王はUAEに3～5日の3日間滞在した後、ローマに戻る機内で、政情不安が続く南米ベネズエラについて言及。暫定大統領への就任を表明したグアイド国会議長とマドゥロ大統領の双方が求めれば「仲介も可能だ」と述べた。マドゥロ氏は法王のUAE訪問直前、「グアイド氏側と対話するための助けを求める」とする書簡を法王に送っていた。(ローマ=河原田慎一)。 <https://www.asahi.com/articles/ASM265KBXM26UHBI029.html>

フランシスコ法王はUAEに3～5日の3日間滞在した後、ローマに戻る機内で、政情不安が続く南米ベネズエラについて言及。暫定大統領への就任を表明したグアイド国会議長とマドゥロ大統領の双方が求めれば「仲介も可能だ」と述べた。マドゥロ氏は法王のUAE訪問直前、「グアイド氏側と対話するための助けを求める」とする書簡を法王に送っていた。(ローマ=河原田慎一)。 <https://www.asahi.com/articles/ASM265KBXM26UHBI029.html>



【サンパウロ時事】ベネズエラで独裁的な反米左派のマドゥロ大統領と「暫定大統領」を名乗る反体制派のグアイド国会議長の対立が激化している問題で、フランシスコ・ローマ法王

は5日、双方が望めば平和的解決に向けて仲介に乗り出す考えを示した。

ロイター通信によると、法王はアラブ首長国連邦(UAE)からの帰途、記者団に対し「(マドゥロ氏からの書簡を)読み、何ができるか考える。ただし、双方が(仲介を)望むことが前提条件だ」と指摘。本格的な対話開始に向けたきっかけづくりを行う用意があると述べた。(2019/02/06)

政情不安が続く南米ベネズエラでは、人道支援物資の搬入をめぐる衝突で死傷者が出るなど、緊迫した状況が続いている。

ベネズエラでは、反米左翼のマドゥロ大統領に対抗して暫定大統領就任を宣言したグアイド国会議長が、アメリカなどからの人道支援物資を搬入しようとしている。

ベネズエラ問題は、世界政情不安の縮図

世界は、ベネズエラのように混迷している。ヘーゲルの弁証法によると、二つに分断して統一、合体させるという方法をイエズス会-イルミナチ-フリーメーソンはどこの世界でも使うようである。彼らの狙いは、世界統一政府である。国々をいろんな問題で困らせて統合する。

「その目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった」大争闘上 294。

あの北朝鮮の金正恩もローマ法王に会うことを切望しているという。



ローマ法王教は、世界のすべてを支配するためには偽り、へつらい、見せかけの友情、表面上の謝罪も使うであろう。

大争闘は、時代が経過するにつれて、ますます激しさを増し、決定的なものとなっており、それは決定的事件の起こる、老練な暗黒の力の働きが最高潮に達する時まで継続するのである。サタンは悪人と一体となって、全世界と、真理を愛する愛を受け入れない教会を**偽り欺く**であろう。

「**巧言(甘言、へつらい)**をもってそそのかし」ダニエル 11:32 も彼らの策略である。

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。**この教会は、再び世界を支配するために**、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、**その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている**。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある」大争闘下 321。

ダニエル 11:40、近いうち「北の王(法王教とその同盟国)に南の王(イスラム)が戦いを挑む」時が来るとなると、「穏健派イスラムとは言え反旗を翻すことが想定される」とファウラー氏は言う。

勿論イスラムの中にも北の王=法王教の支配に屈しない者たちがいる。「しかしエドム、モアブ、アンモン人らのうちのおもな者は、彼(北の王=法王教)の手から救われましょう」とあるがこれらの民族は現存しない。エドムはエサウ(ヤコブの兄弟)、アンモン(ロトの末の子)モアブ(ロトの子)、モアブの子孫、アンモン人に極めて近い(創世記 19:37,38)。

①ヨルダンの東側のイスラムの人々か?! ②靈的に解釈するとかつて神の民であったプロテスタントととるか…まだ未明である。

2018年セミナーで学んだこと:








「神の残りの民への預言研究」

TOPIC

金城重博

1. 黙示録 17 章の 7 つの頭について: お詫びと感謝

以前に黙示録 17 章の赤い獣の 7 人の王を右の図のようにアンカーに載せたことがありました。つまり、ベネディクト 16 世が最後の法王で 8 番目はサタン自身がキリストの姿をして現れるのではないかと。それは World Last Chance のウェブサイトから解釈を借りたものでした。しかし、彼ら自身も謙遜に間違いを認めて詫びて「我々は、この誤りに対して読者が許してくれることを祈っています。…」と言っています。更なる研究によって今は 2 番目の解釈に変えています。(次頁)

1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	
							?	
1922 - 1939	1939 - 1958	1958 - 1963	1963 - 1978	1978	1978 - 2005	2005-	?	
傷が治り始めた							傷が完全に治る	

つまり、第 8 番目の王は、フランシスコ法王であり、初めてイエズス会からの法王となりました。最後の王だと解釈しています。



我々は2018年にDR ファウラーによる預言の研究セミナーを持ちました。DR ファウラーの研究によりますと World Last Chance の研究によって、2番目の図のようにフランシスコ法王が最後の「頭=王=法王」となり得ると言っていますが、断言はしていません(セミナーのシラバスは「神の残りの民への預言研究」としてまとめられている)。

黙示録17章の研究は意義深いものでした。聖書で「7」は完全数ですが、「8」という数字は新しい出発という意味があります。

Dr ファウラーは、大淫婦が獣に乗り始めたのは1929年で、第8人目のフランシスコ法王の時で新世界秩序が構築されると言っています。そうすると、大淫婦は、今度は完全に、世界統一政府=獣に乗ることになります。フランシスコ法王は第8番目の「頭=王」であり、世界統一政府「獣」であるということです。すると、黙示録13章の預言が成就します。「わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のものであった。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた。その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、『だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか。』」13:1-3。

フランシスコ法王の後にまた法王が現れるか否かは断言できないとしています。いずれにしても、New Start -新世界秩序が成ることは確かでしょう。

不思議なことに、法王は終身制ですが、ベネディクト16世は今なおバチカン宮殿に住んでいます。彼がカトリックの教理省長官のドンであり、後ろで彼が牛

耳ついていると言う人もいます。

「ある者は真理に接し、一步一步進んでいき、進む度に次に進む力が与えられた。しかし、今や、時はほとんど過ぎ去り、これまで数年かかって学んだことは、数か月で学ばなければならない。また、彼らは前に学んだ多くのことを捨て去り、多くのことを学ばなければならない。」布告が出される時に獣とその像の刻印を受けたくない者は、否、われわれは 獣の制度を尊重しないと明言する決心を、今、しなければならない」初代文集144。

「今日、私たちの一致は試練のテストに耐えうるための特徴とならなければなりません。…私たちには多くの学ぶべき教訓と、そしてさらに多くの学び直すべき教訓とがあります。神と天だけが無謬です。どんな場合でも自分の抱いている見解を放棄する必要はないし、また自分の意見を変える必要もないと考える人々は失望するでしょう。私たちが自分の考えに頑固に固執して主張し続けるならば、私たちはキリストが祈られたように一致することができません」聖霊に導かれて27-28。

「これ以上真理が示されないとか、我々の聖書の説明には誤りがないという立場をとって言い訳を誰もしてはならない。ある教理が長年我が民によって真理として保持されてきた事実は、我々の考えが誤りのないもの(無謬)であるという証拠にはならない」RH1892年12月20日。

Dr ファウラーのシラバスから、カトリック教会の聖職者たちの言葉を引用しておきます：

カトリック教会にも「最後の法王」について言及している人たちがいます：

- ・ハーマン・ベルナルド・クラマー神父は、最後の法王は不法の者として、鉄のつえをもって治めると書いた(1955年)。
- ・最後の法王教指導者が教会を背教へと導くことは、故マリオ・ルイギ・シアピ枢機卿(1996年に死去)によって暴露された。
- ・アロンソ枢機卿(1975年から1981年)は、その最後の法王について言及：「恐ろしいことが起こるであろう」と。

・神秘主義者のローマ・カトリック神学者であり多くの著書を執筆したロナルド・コンテ・ジュニアは、最後の法王が「ローマ教皇の教会への権威を再確認」し、「ローマ・カトリック教会信仰の至上権と、ローマ・カトリック教会があらゆる宗派と教派の上に立つこと、さらにその権威がすべてのキリスト教徒並びに全世界の人民に及ぶことを強調するであろう」と述べた（2004年）。

・アッシジの聖フランシスコ〔現法王が襲名〕（1182 - 1226）は、終わりの時に、「ひとりの人物がその狡猾さによって教皇に上りつめ、多くの者を誤謬と死へ率いるであろう。彼は真の牧者ではなく、破壊者である」と述べた。

2. 黙示録 17章の 10人の王と「新世界秩序」について：

詳しくは、「神の残りの民への預言研究」にあります。また、「日曜休業令の前にかかるべき諸事件」にも一部は書きました。有名人たちが「新世界秩序」について言っている言葉は興味深いです。

3. 社会主義思想は、実はカトリック教会のトーマス・アクイナスから来たものであること知って驚きました。

「トマスの思想は、その死後もトマス主義として脈々と受け継がれ…ている」ウィキペディア



「ローマ・カトリック教会で崇敬されている歴史上の人物で、ドミニコ会司祭のトーマス・アキナス（1225 - 1274年）という人がいる。彼は、

カトリック教会内で最も影響力のある哲学者、神学者であり続けている。1800年代になってマルクス主義の教義の一つとなる。…」

※ちなみに、日本のカトリック教会の前田万葉枢機



卿の洗礼名は、トーマス・アクイナスである）。

教皇レオ 13 世（1878 - 1903 年）は、後に起こるカトリックのあらゆる「社会主義的」教義の基礎を据えた。



レオは、資本主義をおとし貶めたのである！彼の哲学は、カール・マルクスの概念と何ら違わなかった。

レオの回勅、レラム・ノバルム（1891年）：

1. 労働者たちは貧しく、雇い主らによって不当に扱われていた〔あなたたちは皆犠牲者なのだ〕。
2. 彼らは快適な家に住み、まともな服を着せられ、経済的に安定し、苦勞を免れ得るべきである！〔それは貪欲に訴える？〕
3. 貧者は自分たちの権利のために立ち上がるべきであり、就職し、相当の賃金とふさわしい仕事場の環境を得るといふ利益を守るために、労働組合を利用すべきである〔自らの権利のために雇用者と闘うべし〕。
4. 政府は彼らの権利を守ることによって、貧者の味方となるべきである。
5. 労働論争は、政府またはカトリック教会によって解決されるべきである。
6. 雇い主の富は、財産も含め、貧者に分け与えられるべきである！
7. 賃金は労働者とその妻、子供たちを支えるのに、十分かつ潤沢であるべき。
8. 労働者は、週に六日を超えて働くべきではない。休息と安息〔安息日〕のために、一日を充てるべきである。

この思想が世界統一政府とどうつながるかは Dr ファウラーのシラバスを見てください。

なるほど、現フランシスコ法王は「富の分配」のメッセージを繰り返して発することがよく分かりました。

しかし実際は、黙示録 18 章によると、世界中の富を獲得するのは、ローマ・カトリック教会であることが明白です。

注解者、E.G. ホワイトはこう言っています：

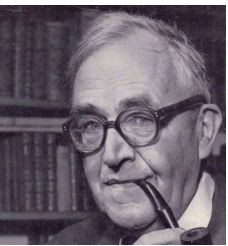
「その(イエズス会)目的とするところは、①**富と権力の獲得**であり、②プロテスタント主義をくつがえし、③法王至上権を復興することであった」大争闘上 294(番号は筆者の追加)

赤間剛氏の「バチカンの秘密」、アプロ・マンハッタンの「Vatican Billions」や、デイビッド・ハント、エリック・フィリップスの本などでも、カトリック教会の巨大な富が暴露されています。大宅壯一氏も、バチカンの資産は「天文学的数字のもの」(文芸春秋)と言っています。



共産国であったルーマニアにおいて、家族と共に宮殿で暮らし、困窮する国民をよそに、贅沢をほしいままにしたチャウシェスク大統領の銃殺は覚えておられる方もいると思います。大量虐殺や不正蓄財の罪で起訴され、軍事法廷で死刑判決を言い渡され、その日のうちに公開で 1989 年 12 月に銃殺されました。

ある人は、「ローマが共産主義を生んだのだ」と言いました。



「1948 年、ヨーロッパの主導的なプロテスタント神学者カール・バルトは、カトリックと共産主義の政治的な政策の間の類似点について、イエズス会修道士のジャーナリストに向かって、辛らつなコメントをした：『私は彼らの間(ローマ・カトリック教と共産主義)の間に、何らかの接点を見る。両方とも全体主義で、両方とも人間を全体と主張する。[イエズス会修道士から学んだことだが]共産主義は組織化のほぼ同じ方法を使っている。両方とも明らかな全体に非常な強調を置く。しかし、プロテスタント主義にとっては、どちらかという、ローマ・カトリック主義がもっと危険である。共産主義がなくなっても、ローマ・カトリック教は永続するであろう」"American Freedom and Catholic Power," pages 243-4.

E.G. ホワイトは次のように言っています：

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものが

ある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている」大争闘下 321。

4. 「日曜休業令」を聖書から解き明かす

証の書には日曜休業令について多く書いてありますが、聖書のどこにそれを見出すことができるでしょう。マタイ 24:15 とダニエル 12:11 とエゼキエル 8 章です。

5. エレン・ホワイトの時に関する預言について

1844 年以後は時に関する預言はないとよく言われます。「一つの言葉をもって他を無視してはならない」とのことを覚えていなければなりません。「特定の日時」、何年何月何日は 1844 年が最後です。預言者の言葉を勘違いすることは危険です。

6. 地上歴史約 6 千年について

創造週 6 日間と地上歴史 6 千年の研究も興味深いものでした。地上歴史約 6 千年という研究からももうアブラハムたち、聖徒たちが待ち望んでいた新天新地は近いことがわかります。ある人は 2022 年が地上歴史の終わりだと計算する人もいますが、創造の時から数えるのか、アダムが罪を犯して後から数えるのかによって異なります。アダムがエデンの園から追い出されてカインが生まれます。創世記 3:24、4:1。罪を犯すまで、どれだけエデンの園で過ごしたかは、定かではありません。おそらく短期間でしょう。いずれにしても 6 千年の歴史は終わりに近づいています。

セミナーでいろんなことを学べて、確信が深められたことは感謝でした。

兄弟姉妹方、「祝福に満ちた望み」を「聖徒の忍耐」をもって待ち続けましょう！

「人の子よ、イスラエルの地について、あなたがたが『日は延び、すべての幻はむなしくなった』という、このことわざはなんであるか。それゆえ、彼らに言え、『主なる神はこう言われる、わ

たしはこのことわざをやめさせ、彼らが再びイスラエルで、これをことわざとしないようにする』と。しかし、あなたは彼らに言え、『日とすべての幻の実現とは近づいた』と」エゼキエル 12:22、23。

1844年の大失望の後に、再臨信徒らは新しい光を見出し、再びイエスの再臨運動に立ち上がったのでした。当時つくられた讃美歌を、一つ紹介します。

作詞：アニー・リベッカ・スミス

初期の再臨運動の指導者、神学者ユライア・スミスの妹。

1. 「見張りよわが家は はるかに遠きか

けわしき旅路に 疲れ果てぬ」

「涙をぬぐいて ひたすら主を待て

悩みは消えゆき 朝は来る」

2. 「この世のいざない 激しくせまれり

勝利のあしたは いつ来たるや」

「涙をぬぐいて ひたすら主を待て

激しきたたかい ついに終わらん」

3 「終わりのしるしはこの世にあふれる

マラナタ主イエスよ はやく来ませ」

「涙をぬぐいて ひたすら主を待て」

恵みのその日を 望み祈れ」

4. 「見張りよ夜明けは まもなく来るや

わが主のみ国に ゆきて憩わん」

「聖徒よかなたの みやこにのぼりて

救いのよろこび ともに歌え」



E.G. ホワイトの見た夢 - ホワイト夫人略伝 110





2019年何事かが？

デビッド・ゲイツ VS マーク・フィンレイ (世界総会代表)

金城重博



今、アメリカのセブンスデー・アドベンチスト支部総会では、ミッションパイロットのあの有名なデビッド・

ゲイツ牧師と世界総会の総理側近の一人、マーク・フィンレイ牧師との意見の対立で物議をかもしているようです。

預言者 E.G. ホワイトは、終わりの時代にわが教会に混乱と困惑の時代が来ると言われました：

「教会の清めの日は急速に近づいている。神は清い、真実な民をお持ちになるであろう。まもなく起こる大いなるふるいにおいて、イスラエルの力が分かるであろう。様々なしるしは、主がみ手にうちわをもって、その打ち場(教会)を徹底的にお清めになる時が近づいている事を示している。大きな混乱と困惑の時代が急速に近づいている」5T80(1882年)。

神学、預言、教育、礼拝、ライフスタイル、女性按手礼等、いろんな面でも「混乱と困惑の時代」に入ってきていると思いますが、今日は、預言の問題をとりあげてみたいと思います。

日本においてもある方々が、デビッド・ゲイツ氏の説教(動画とプリントあり)を見て、非常に時は近づいていると少々興奮してお問い合わせがあったので、この際、それについて我々の立場を書いてみたいと思います。両方の言い分がありますので、検証してみたいと思います。

デビッド・ゲイツ牧師がどんな人物かについて知っておられる方は、少なくないと思います。彼は、南米中央部ボリビアを拠点として、飛行機を使っている伝道に携わっておられます。「命をかけて」と言



いますか、その献身ぶりには頭が下がります。精力的に世界中を飛び回っています。看護師でもあるので医事伝道、文書印刷伝道、メディア伝道、教育伝道、音楽伝道、講演会、セミナー等々と包括的な自給伝道をなさっていて、多くの方々から、世界総会からさえ彼の働きは高く評価されていました。確かに神の働きのために奇跡的に必要な金額、しかも多額な献金が与えられてきた驚かされる証がたくさんあります。必要な人材、必要な機器(飛行機さえも)、メディア伝道に関することにも。それゆえに多くの人が彼の働きを支えています。彼のミニストリーは GMI(Gospel Ministry International - 世界的福音伝道-)と呼ばれています。

その彼が、2018年10月に“Even at the door = 戸口まで近づいている”という強烈な時の切迫を伝えるメッセージを発信しました。それが物議をかもし、世界総会のマーク・フィンレイ牧師が公式に YouTube で反論しています(両方の主張がプリントにもなっています)。フィンレイ牧師は、ゲイツ牧師のメッセージに四つの点で反論しています。簡単にまとめてみます。

マーク・フィンレイ牧師の反論の要点は以下の四点：

1. まず、第一に述べたいことは ゲイツ氏の発言は個人的発想に基づいており、聖書の根拠に欠けています。「神が私に見せられた」とか「私の友人が夢で見せられた」などというところです。このような表現を信じることは大変危険です。…1886

年8月3日のレビューアンドヘラルド紙のホワイト夫人の記述では「印象や感情は主が導いておられるという証拠にはならない」と書かれています。ゲイツ氏は自身の個人的体験や主観に余りにも重きを置いています。良い人であってもそれは大変危険なことです。

2. 第二はローマ法王が2015年9月23日に米国に来たということに関して、それが起算点になり、1260日後の2019年の3月か4月には預言が成就すると言っていることです(ダニエル12:6,7)。しかし、それはSDAの本来の預言の解釈とは全く異なっています。①1260日(年)、42か月、3年半などの期間的預言は過去に成就しており(黙示12:6;12:14;13:3参照)、それを未来の出来事に当てはめるのは未来主義の発想です。②SDAではこの期間の起算点を西暦538年、成就の



左はバイデン副大統領(イエズス会)
右はベイナー下院議長(カトリック)

ときを1798年としてきました。ゲイツ氏は福音派教会の教えのように、この期間を未来主義のように勝手に未来の出来事として当てはめています。

です。主の来臨が遅いのは日程の問題ではなく、私達の心の問題なのです。③ホワイト夫人も初代文集(1851年p.75)の中で「1844年以降は時にに関するテストはない。」と明言しているのです。ですので、その後のタイムチャートはありえないのです。

3. 第三の問題は日曜休業令と生きている者のさばきに関してです。日曜休業令はパリのClimate Agreement(気候変動に関する同意)ですが、それには日曜休業令は含まれていませんでした。④その中には環境問題に関する事柄が記されてありましたが、それが今後の日曜休業令に発展するにあたり、なにかの形によって影響を及ぼす可能性はありますが、今のところは問題になるようなことではありません。しかもアメリカの大統領は、パリ協定から離脱すると宣言しました。

まだテストの時ではないため、裁きは始まっていません。まだ恵みの戸は開かれています。エレンGホワイトは、これを明らかにしています。

「人々は特定の時に関する別のメッセージを持つことはないであろう。1842年から1844年に至る、時のこの期間[黙示録10:4~6]の後、預言的時の特定な追跡はあり得ない。最も長い計算は、1844年の秋に達している」。

4. 第四の点は2015GCセッションにおいて基本的なSDAの信条は変えられたのかということです。それで、2010年のものと2015年のものを両方ともお見せいたします。

2010年のもの…(中略)ゲイツ氏が再臨について「切迫した」と言う表現から「まもなく」(soon)という言葉に訂正したということですが、2010年では確かにimminent(差し迫った)という言葉が使われています。しかしながらimminentは聖書では用いられていません。

イエスご自身が「近く」、「迫って」という語彙のnearを使っています(ルカ21:28;マタイ24:33)(29:10)。聖書に書かれてあるものですがから世界のどこに行っても理解できるような語彙にするように努めています。

またホワイト夫人の預言の賜物に関してですが、2010年のものと2015年のものを両方ともお見せします。

教会指針2010年:「聖霊の賜物の1つは預言である。この賜物は残りの教会を見分けるしるしであって、E・Gホワイトの奉仕にあらわれている。主の使者としての彼女の著書は、常に信頼のおける権威的真理の源であって、教会が慰め、導き、教え、その過ちを正す。彼女の著書はまた、聖書がすべての教えと経験を審査する基準であることを明らかにしている」。

教会指針2015年:「聖霊の賜物の1つは預言であると聖書は述べている。この賜物は残りの教会を見分けるしるしであって、E・Gホワイトの奉仕にあらわれていると信じる。彼女の著書は、預言の権威をもって語り、教会を慰め、導き、教え、その過ちを正す。彼女の著書はまた、聖書がすべての教えと経験を審査する基準であることを明らかにしている」。

ご覧のように預言の賜物については、2015年のほうが強調しているのが分かります。なぜなら、「聖書は」と言っているからです。聖書が立証しているという言葉が入っているので誰も疑問を投げかける余地がないと言っていいでしょう。(中略)

「主のメッセンジャーとしての彼女の著書は、常に信頼のおける真理の源であって、教会を慰め、導き、教え、その過ちを正す。」(Fundamental Beliefs/The Gift of Prophecy 2010)

「彼女の著書は預言的権威をもって語り、教会を慰め、導き、教え、その過ちを正す。」(Fundamental Beliefs/The Gift of Prophecy 2015)

2010年の信仰の大要の内容は誤解しやすい方々にとって問題となる可能性があります。

我々は聖書を「信頼できる (authoritative = 権威)」と信じていないのでしょうか。

SDA教会は、エレンホワイトを教会に与えられた預言の賜物と信じています。しかしまた、聖書を最終的な権威あるものとして見なしています。これを明確にするために、「彼女の著書は預言の権威を持って語り」としました。彼女の著書は、全ての権威ある真理の基礎である聖書に取って代わるものではありません。

「continuing = 継続的」という言葉を取り除いたのは、彼女が亡くなり、生きている預言者として今現在の教会に対するメッセージを持っていないからです。

今度はゲーツ牧師の主張の要点を見てください：

デイビッド・ゲイツの動画テープ起こし原稿
小川晴美翻訳より抜粋

1. 「我々は戸口にいます。これはたくさんの祈りと宣教の同労者、他の牧師の方々との話し合いから確信に至ったものです。全く違う観点の牧師の方々も同じ結論に到達しました。何人かの同僚、友人、その他の方々も夢を通して確認しました。それらを通して私は今起きている事の重要性に気づき、調べ始め、理解し始めました。

2. エルサレム崩壊と今日アメリカに起きている類似点から次のように言っています：

日曜休業令と生きている者のさばき

紀元66年を振り返ってみましょう 紀元66年にキリストはこの世代が過ぎ去る前に、これらが

成就すると言われました。キリストは2つの出来事について言っておられます。エルサレムの陥落と終りの時代に存在する最後の世代のことです。エルサレムで何が起こったのかを見てみましょう。

紀元66年にケスティウスが攻撃しました。彼はあまり経験を積んでおらず、実際、彼はひどく失敗をしました。彼は補給品を後ろに持っていたために後から攻撃され、ほぼ6000人の兵を失いました。包囲攻撃の9日後に、彼は突然兵を引きました。そしてエルサレムを去りました。

これは弟子たちが待ち構えていたしるしでした。神の民が逃げるために必要なしるしでした。ローマ軍が立ち去った後すぐにローマ軍の攻撃にしるしを認めたすべてのクリスチャンはエルサレムを去り、3年半後に軍司令官ティトゥスがエルサレムに戻ってきて破壊したときに、1人も命を失いませんでした。

興味深いのはケスティウスが、紀元66年の秋に来てティトゥスが、春の過越しの祭りの数日前にまた戻ってきたことです(紀元70年)。都の中のユダヤ人を全て捕らえました。秋から春までぴったり3年半後でした。もちろん、何百万人ものユダヤ人が暗くなった丘の斜面を横切りローマ軍に対する反乱のために多くの者が殺害されました。

「日時を設定するつもりはなく、どれほどキリストの再臨が近いかを私達に示す現在起こっていることとの類似点を皆さんにお伝えしたいのです。実際のタイミングは神が明らかにされるでしょう。私は独断的になっているわけでもなく100%知っているわけでもありません。私が見聞きしたこと、そして確信したことをお伝えするだけです」。

「ローマ軍が3年半後に戻ってきたときにはエルサレムで命を失ったクリスチャンは1人もいませんでした。2015年の秋の3年半後は2019年の春です。わずかに数か月先ですが私は何かが起こると確信しています。

「日曜休業令のときが始まりだと言う人もいます。それについては調べましたが 確かに日曜休業令は世の人々に対する生ける者の裁きです。しかし、すでに神の民の事前準備と裁きは終わっているはずで、日曜休業令が発令されるときは、それは始まりではなく残りの神の民にとってそれは終了する時なのです」。

「日曜休業令のとき、神の民は準備済みでなけれ

ばなりません。もみ殻は小麦から分離しなければなりません。そして彼らは聖霊、後の雨を受けなければなりません。そして大いなる叫びに出て行かなければなりません。そして世の人々の裁きが行われるのです。しかし教会の裁きはその前に行われます。…

2015年9月23日の贖罪の日に至聖所におられるキリストが裁きの第2段階、彼の教会であるSDAの生ける者の裁きに入ったと私は確信しています。3年半の間です。神は、教会の指導者たちから始めて各教会員を裁き、3年半後の2019年の春に終えられると確信しています」。

…

「ところで、興味深いことですが聖書には、第2の3年半について書かれています。…

これから起こる第2の3年半の期間のことがわかるようになります。そしてこれが起こったとき、キリストの再臨が非常に近いことが良く分かるでしょう。かなり近づいています。実のところ、花婿が来られるのです。迎えに出る時です」。

※つまり、ゲイツ氏によると、日曜休業令までにセブンスデー・アドベンチストの裁きは終わって、恩恵期間は終わっている。日曜休業令からは世の人の裁きが始まるというのです。

3. 2019年、春に日曜休業令—環境問題

「9月23日にローマがアメリカ政府の立法、行政及び司法機関の乗っ取りを開始しました。ローマはすでに経済を支配しており環境の法律という形の日曜休業令がすでに準備されています。12月までには全ての計画が完成し2019年の春、3月あるいは4月までには神の律法、神の民に対する最後の攻撃がなされるでしょう。…(それから第2の3年半の迫害の期間が始まる)」。

「法王には42ヵ月の間、権力が与えられ聖徒と戦って勝つことが許されます。42ヵ月を預言的期間として過去の1260年間に起きたことと考えてきました。しかし神は預言において、二重適用を用いられることが分かります。例えば、言葉通りの7つの教会と7つの期間を表す7つの教会のように、これについては幾つか例があります。ダニエル書12章のように預言の期間には、言葉通りの意味と過去の象徴的な意味の両方があることがわかりま

す。1つは、過去に起こったことを示しもう1つは、将来次々に起こる出来事を私たちが言葉通りに理解するために示されます」。

サンライズ・ミニストリーの立場：

1. 世界総会を代表するマーク・フィンレイ牧師は、ゲーツ牧師を「神が私に見せられた」とか「私の友人が夢で見せられた」という表現、また、1886年8月3日のレビューアンドヘラルド紙のホワイト夫人の記述では「印象や感情は主が導いておられるという証拠にはならない」との言葉を引用して、ゲイツ氏は自身の個人的体験や主観に余りにも重きを置いていて…それは大変危険なこととしています。

確かに、そうだと思います。しかし、神は必要な時には夢を通して示されることには、例外もあると思います。「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る」(ヨエル2:28)。必ず、預言者だけに夢という手段を用いられるのではないと思います。

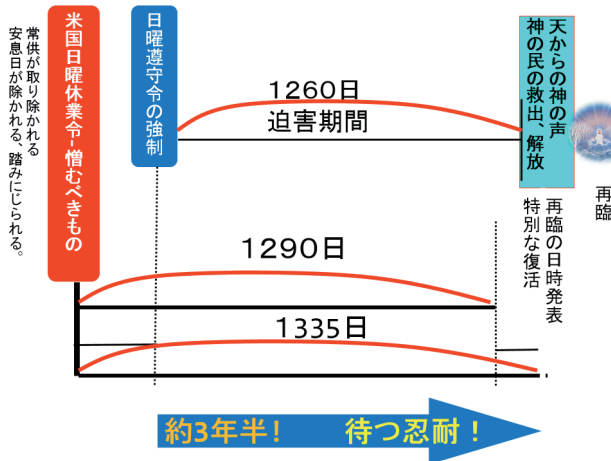
2. 2015年にフランシスコ法王が初めて、アメリカ両院議会で演説をしたことは、確かに神の民にとって預言的な意味があると思います。ヨーロッパからカトリックの迫害を受けて、命をかけて新大陸に逃げてきて、カトリックにプロテスト(抗議)して、宗教自由と共和政体のプロテスタントとして誕生した国が、今日、下院議員、最高裁のメンバーのほとんどがカトリック、イエズス会に占められているということは、まさに聖書の預言の成就であることははっきりしています。神の民はこの事件に驚き、覚醒すべきではないでしょうか。これらの事については、アンカー誌に何回も書いてきました。神の民が目覚ます時であるとのラッパの音は、ラオデキヤ教会にも、私自身にも大きな意味があると思います。

しかし、ただ残念なことは、ダニエル12章の預言期間の適用の仕方が誤っていたことです。2015年から3年半(ひと時とふた時と半時)の預言期間が始まって、神の民の生ける者のさばきが始まり、2019年の春にSDAの恩恵期間が終了するということは、明確に誤りであることは否めません。ダニエル12章の迫害期間は、明らかにアメリカにお

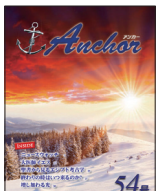
いて日曜休業令が立てられ、それからその遵守を強要することから始まるのです。

我々は、日曜休業令、聖書でいう「荒らす憎むべきもの」がアメリカ国家としてはっきりと見える形で憲法改正がなされることを知っています。2015年にそんなことは起こりませんでした。我々はダニエル12章の3年半、1290年、1335年は近未来に字義通り成就することを信じています。その根拠については、アンカー誌にも挙げました。①ダニエルの4つ目の預言の焦点は、10:14に「末日に」神の民にどんなことが起こるかということであって、1844年以前に起こったことではないこと、②ダニエルは「これらの驚くべきことの終わりはいつか」と終わりの時代の結末を質問しているのであって、1844年以前のことを聞いているのではないこと、③我々の先駆者たちは、「ひと時とふた時と半時」は、ダニエル7:25と言葉が同じなので、1844年以前に置いたが、1850年の図表からは除外した事実、④ダニエル11:40から12:3までの文脈を見ると未来であり、⑤ヘブル語で「ヨム-日」に数字がつながっているときには、字義通りであること等々の理由で、中世時代のヨーロッパでなく、全世界的に起こる迫害のことに適用すべきであることを信じています。

近年、解読された新しい預言の解釈であります。



アンカー誌54号「終わりの時はいつ来るのか」を読んで頂きたいと思います。



世界総会を代表する、マーク・フィンレーの過去適用には同意できません。我々は何回もこの新しい預言解釈について検証してきました。

ゲーツ牧師の誤りについて、私はその適用があったことは、返す返す残念ですが、だからと言って彼の素晴らしい他の働きを否定することはできません。「我々はみな多くの過ちを犯すものである」(ヤコブ3:2)。

弟子たちは、ダニエル9章の預言の大事な部分を見逃して大失望を経験しました。しかし、それが何よりもよい準備となったと書かれています。1840年代の再臨信徒はダニエル8:14の預言を誤解しました。しかし、それが深い聖書研究に導いてセブンスデー・アドベンチスト運動として世界的に展開していきました。

この度のゲーツ牧師の問題が、アドベンチストをしてダニエル12章の預言期間に注目させ、差し迫っている危機に備え、神の祝福—後の雨に備えさせることを祈るものです。この問題で迫っている危機に目覚めず「平和だ無事だ」という更なる深いラオデキヤ状態に陥る人と、ダニエル、黙示録のかつてないほどの深い理解に導かれ、後の雨/大いなる叫びに備える人に分断されていくでしょう。

2015年に生ける者の裁きが始まったとするなら、罪の除去、後の雨、生ける神の印が始まっているはずですが。この点においてゲーツ牧師の間違ひは残念だったと思います。

しかし、彼が時の切迫を投げかけ、かつてない準備をすべきと訴えたことは、神が摂理のうちにゆるされたことでしょう。マーク・フィンレー牧師は、12章の預言期間は、過去のことであり、日曜休業令はいまのところ「進行中ではない」(これは総理の発言)から、そんなに騒ぐ必要はないと言っています。

私は、神の民の危機と沈下が最高潮に達しようとしていることをひしひしと感じます。が、ゲイツ牧師のように全き献身、行動ができていないのをもどかしく思っています。

3. 預言の霊— E.G. ホワイトのことに关しては、教会指針で表現が少しずつ変わっています。

●「預言の賜物：聖霊の賜物(複数)の一つは、この賜物は残りの教会を見分けるしるしであって、エレン・G. ホワイトの奉仕にあらわれている。主の使者(メッセンジャー)としての彼女の著書は、真理の継続的な権威のある源であり、教会を慰め、導き、教え、過ちを正すように提供されている。彼女の著書はまた、聖書がすべての教えと経験を審査する基準

であることも明らかにしている」 May 1, 1980, pp. 25, 26; see also "Doctrinal Statements," SDA Encyclopedia (10BC [1996]: 468)。

- 2005年の教会指針と表現が異なっている。

「常に信頼のおける真理の源」となっている。

- (Fundamental Beliefs/The Gift of Prophecy 2010)

「主の使者としての彼女の著書は、常に信頼のおける真理の源であって、教会を慰め、導き、教え、その過ちを正す。」

- 2015年の教会指針「われわれは、それがエレン・G/ ホワイトの奉仕にあらわれていたと信じる。彼女の著書は預言の権威をもって語り、...」となっている。

表現の仕方が変わっていますが、私は今のところ判断できません。公式の文言の違いがよく分かりませんが表現「真理の源の継続的な権威」であったものが、「彼女の著書は預言の権威をもって語り」と変わっている。フィンレイ牧師は、「continuing、継続的な」という言葉を取り除いたのは、彼女が亡くなり、生きている預言者として今現在の教会に対するメッセージを持っていないからです」と説明している。

ただ、我々は「サタンの最後の欺瞞は神のみ霊の証を無効にすることである」(ISM48) ことを覚えておく必要があります。

4. imminently(切迫した) から soon(まもなく) へ変えたことについてもよく分かりません。ただ、ラオデキヤ教会は、下記のような聖句にあるように、時の切迫感を先駆者たちのように持っていないことは否めません。

エゼキエル 12:22 「人の子よ、イスラエルの地について、あなたがたが『日は延び、すべての幻はむなしくなった』という、このことわざはなんであるか」。

「主人の帰りがおそいと心の中で思」うムードがみなぎっているのではないのでしょうか。

- 教会の指導者に求められていることは何でしょうか。

「主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、『主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください。どうしてももろもろの国民に、「彼らの神はどこにいるのか」と言わせてよいでしょうか』」ヨエル 2:17。

● われわれは、今、大いなる贖罪の日に生きている。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって、魂を悩まさなければならなかった。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであった。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に魂を悩まさなければならない。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。多くの自称キリスト者がいだている軽薄な精神は、捨て去らねばならない。われわれを打ち負かそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、はげしく戦わなければならない。準備は、一人一人がしなければならない。われわれは、団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいあってはならないのである」大争闘下 224。

今日、バビロン教会を真似てセレブレーション礼拝をする時ではないはずです。メガチャーチの真似をする時ではないはずです。

「わたしは、残りの民が、この地上に起ころうとしていることのために、準備をしていないのを見た。最後の使命を持っているという信仰を公言する人々の大部分は、昏睡状態のような無感覚に陥っている。わたしと一緒にいた天使は、非常な厳粛さをもって叫んだ。『準備せよ、準備せよ、準備せよ。神の恐ろしい怒りが間もなく臨もうとしている。神の怒りは、あわれみを混じえないで、注がれようとしている。それなのに、あなたがたは準備ができていない。衣を裂かないで、心を裂きなさい』」初代文集 222。

昔のエルサレムにバビロンから破滅が迫って来た時、エレミヤは何と言ったのでしょうか？

「ああ、わがはらわたよ、わがはらわたよ、わたしは苦しみにもだえる。ああ、わが心臓の壁よ、わたしの心臓は、はげしく鼓動する。わたしは沈黙を守ることができない、ラッパの声と、戦いの叫びを聞くからである」(エレミヤ 4:19)。民の反応はどうだったでしょうか？

「主はこう言われる、『あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。しかし彼らは答えて、『われわれはその道に歩まない』と言った』」(エレミヤ 6:16)。

「わたしはあなたがたの上に見張びとを立て、『ラッパの音に気をつけよ』と言った。しかし彼らは答えて、『われわれは気をつけることはしない』と言った」。(エレミヤ 6:17)。

危機が迫っているのに、愛の警告をしない牧師たちはどんな責めを受けるでしょう。

「災害の結果に苦しんで、悪人たちの多くは怒りに燃えた。それは恐ろしい苦悶の光景だった。親は子供たちを激しく非難し、子供たちは親を、兄弟は姉妹を、姉妹は兄弟を非難していた。『あなたがわたしに真理を信じさせまいとしたのだ。そうでなければ、こんな恐ろしい目に会わずにすんだものを』と言って、大声で泣きわめくのが、四方から聞こえた。人々は、激しい憎しみをもって牧師たちに向かい、『あなたは、わたしたちに警告してくれなかった。あなたは、全世界の人が悔い改めて救われる

時が来ると言ったではないか。あなたは、平和だ、平和だと叫んで、恐怖心の起きるたびに、それを静めてしまって、こんなことになるとは言わなかったではないか。わたしたちに警告する人があると、あれは狂信者で、わたしたちを滅ぼす悪い人たちだと、あなたは言ったではないか』と言って、彼らを責めた。しかしわたしは、牧師たちも神の怒りをまぬかれないのを見た。彼らの苦しみは、人々の苦しみよりも十倍も激しかった」初代文集 455。

「われわれは、団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない」大争闘下 224。

ご協力のおねがい

1. これまで多くの「**歴史と聖書の預言**」(各時代の**大争闘**)が配布されてきました。これは奇跡というより神のくすしきみ業であると感謝しております。カラーの絵が入って読みやすいと好評です。そしてこの度さらに3万冊増刷することとなりました。

2. **キリストへの道**(カラー)も1万冊増刷いたします。

ふたつ合わせて1,300万の資金が必要です。これらの「沈黙の説教者」を日本全土に配れるよう皆様のご協力と献金をよろしく願っています。時は近づいています！

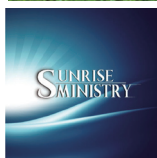
インターネットでも
ご覧になれます。

毎週の説教動画、セミナー等更新中。
無料書籍も閲覧可能です。

サンライズミニストリー

検索

Online Sermons



facebook

Sunrise Ministry | Facebook

<https://www.facebook.com/srsministry?ref=hl>

YouTube

Sunrise Ministry | Youtube Channel

https://www.youtube.com/channel/UC_MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxW

日曜休業令が出る前に 起こるべきこと

Dr フランク・ファウラー、金城重博

序論：

多くのセブンスデー・アドベンチストは、次のようなニュースを聞くとわくわくする。

- ・法王が「主の日」の重要性について何か言うとき、
- ・気候変動のニュースが出る時、あるいはそれが宗教的な「道具」となるのではないか、

例えば、日曜日に仕事をしなくなれば、それだけ環境汚染を減らせるとか…

- ・ヨーロッパの日曜休業令が、まもなくアメリカにやってくるとか…
- ・福音派の人が法王を訪問することは、いよいよ淵を超えているとか…
- ・米国議会に、あるいは最高裁にカトリックのメンバーが増えていることが、日曜休業令の舞台をセットしているとか…
- ・米国の大統領が宗教的なことに関して言及すると、もう日曜休業令が目の前にきたとか…

宗教的な規制が迫っている事は、ダニエル書、黙示録の研究から分かる。しかし、ニュースに踊らされるのではなく、確実な預言に基づいて十分な準備をしていなければならない。

ダニエルは、イエスのご再臨前の地球最後の迫害期間について述べている。

ダニエル 12:6-13 に差し迫った非常に重要な預言が

ある。

「わたしは、かの亜麻布を着て川の水の上にいる人にむかって言った、『この異常なできごと(これらの驚くべき事 - 新共同訳、不思議 - 新改訳)は、いつになって終るでしょうか』と。かの亜麻布を着て、川の水の上にいる人が、天に向かって、その右の手と左の手をあげ、永遠に生ける者をさして誓い、それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民を打ち砕く力が消え去る時に、これらの事はみな成就するだろうと言うのを、わたしは聞いた。

わたしはこれを聞いたけれども悟れなかった。わたしは言った、『わが主よ、これらの事の結末(この終わり - 新改訳、新共同訳)はどんなでしょうか』。

「常供(永続するもの一名詞)の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、1290日が定められている(「燔祭」という言葉は翻訳者が追加したもの)。

待っていて1335日に至る者はさいわいです」。

ダニエル8章から12章には、二つの幻がある。一つは2300の預言(マレー)であり、もう一つは最終事件に関する幻(ハーゾン)である。2300の預言(マレー)は、セブンスデー・アドベンチストによって解読された。しかし、もう一つの預言(ハーゾン)について、徹底的な解読、知識が要求されている。

144,000は、日曜休業令の前に先の雨の経験を持っていなければならない。絶対不可欠な理解すべきことは、預言期間のことであり、それが御霊の働きと関係して効果的な証をさせるものである。

クリスチャンは、聖書によると、終わりの時には安

息日の律法が焦点となることに注目していなければならない。

しかし、その事件が出る前に多くのことが起こることを知らなければならない。

そのことについて学んでみたい。

ペテロはこう言っている：

「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう 確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい」第二ペテロ 1:19。

マタイ 24 章、マルコ 13 章、ルカ 21 章から我々は日曜休業令の前に起こるべきことを綿密に研究しなければならない。マタイ 24 章の「荒らす憎むべきもの」、ダニエル 12:13 の「ひと時とふた時と半時」「荒らす憎むべきもの」、黙示録 13:3 「頭の一つが死ぬほどの傷を受けた」こと、13:12 「致命的な傷を受けた獣」、黙示録 17 章の「赤い獣に乗った大淫婦」等々。

日曜休業令に先立つ諸事件

事件 1. ローマ法王権の復活

獣の傷はいつ完治するのであろうか？

ローマ法王権は 1798 年に致命的な傷を受けた。1929 年のラテラン条約によってカトリック教会は再び「国家」を獲得した。それからバチカン市国と呼ばれるようになった。それは、世界最小の国で、たった 108.6 エーカー＝約 0.44km²、(東京ディズニーランド約 0.52km²) しかない。しかし、たちまち国際的に国家と認められる。すると各国から大使、公使が集まる国となり、国連の NGO となる (NGO とは—非政府組織、民間人や民間団体のつくる組織であり、国内・国際の両方がある)。現在、ローマには 182 か国を代表する 182 人の大使がいる！

「致命的なきずもなおってしまった」(黙 13:3) とあるが、まだ完治ではない。しかし タイム誌 は 2013 年 3 月 25 日号で、フランシスコ法王を New World Pope 「新世界法王」とした。法王が新世界秩序の頭となる日は迫っている！(彼が最後の法王となるか、彼の次にもう一人現れるかは断言できないが、新世界秩序が構築されるであろう)。

日曜休業令の前に、黙示録 17 章の大淫婦が獣に乗るという預言が正式に成就するであろう。それから黙示

録 13 章の獣の刻印が全世界に強要されるであろう。その権力は甚大なものとなる。フランシスコ法王は、2018 年 1 月の、世界経済フォーラム会議において枢機卿、ピーター・タークソンを通じて、全世界から集まってきた 3,000 人の大使、公使にメッセージを送った。続いて、この法王はローマに滞在するすべての大使の前で演説した。

この国際的なバチカン市国は、彼らを通して全世界の国につながっていることを意味している。



事件 2. 144,000 の準備がなされる

キリストの再臨前に、地球最後の使命を発信する聖徒たちの備えができていなければならない。

10 人の乙女たちのたとえ話に驚くべきことが含まれている。象徴的に、真理が真夜中の絶頂に達するとき、最も暗い時に、熱心な叫び声が高々とあがる (マタイ 25: 6)。「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」と。行進の時は来たと呼ぶ者たちは誰だろうか？

「大いなる混乱と困惑の時が急速に近づいている。サタンは天使の衣を着て、惑わし、できれば選民をも惑わそうとするであろう。多くの神々、多くの主がいるであろう。様々な教理の風が吹きまくるであろう。『誤った偽りの科学と呼ばれるもの』を最高に崇める者たちは、その時指導者になれな

いであろう。知性、非凡な才能に信頼した人たちは、その時、軍隊の先頭に立って、行進しないであろう。

最後の厳粛な働きには、偉い人たちはほとんど携わらない。・・・我々の時代において、神はほとんどの者が**予期しない方法**で働きをなさるのである。神は、科学的な機関での表面的な訓練によってではなく、ご自分の霊の注ぎによって教えられた者たちを我々の間から起こし、高められるであろう。これらの施設が軽蔑あるいは非難されるべきではない。それらは神が制定なさったからである。しかし、それらはただ外面的な資格を与えるのみである。神は、ご自分が学識のあるうぬぼれた人間には頼っておられないということをはっきりと示されるであろう。

主は忠実なしもべたちを持っておられ、彼らはふるわれて試みられる時に人々の前面にあらわれる。バアルにひざをかがめなかった**尊い人々が今は隠されている**。彼らはあなたがたの前で閃光となって輝いている光を持っていなかった。だが、粗野で魅力のない外面の下に真のクリスチャン品性の輝きがあらわされることがある。昼間は天を見ても星は見えない。星は大空の定められた所にあるのだが、目はそれらを識別することができない。夜になると、本物の星の光彩が見られるのである」。—5T 80-82 (1882年)

「働き人は、学歴ではなくて、聖霊を注がれることによって資格を与えられる。信仰と祈りの人は、聖なる熱意に燃えて出て行き、神から与えられる言葉を宣言せざるをえなくなる」。—大下 376 (1911年)

144,000 の大いなる使命は、地上最後の叫びをすることであることは、多くの預言で明らかである。その 144,000 はいつ出現するか？

「法令が発布されて印が押されるとき、彼らの品性は永遠に清く、しみのないものとなるであろう」。5T 216

「あなたがた、恥を知らぬ民よ、共につどい、集まれ。**法令が出る前に**〔欽定訳〕すなわち、もみがらのように追いやられる前に、主の激しい怒り

がまだあなたがたに臨まない前に、主の憤りの日がまだあなたがたに来ない前に。すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあるろう」ゼパニヤ 2:1-3。

今は、セレブレーションの時ではない。昔、贖罪の日に、イスラエルの民は仕事を止め、断食し、聖所の周りに集まって深く心を探った。エゼキエル 9 章によると「嘆き悲しむ人々」に印されることが描かれている。自分の罪、教会の罪を嘆く人々が印される厳粛な時なのである。

「教会の危機と沈下が最高の時、光に立っている小さな群れは地に行われている憎むべきことに対して嘆き悲しむであろう。しかし、教会員が世の方法に従っているので、彼らの祈りは特に教会のために捧げられるであろう」5T209。

今日、144,000 に加わるために嘆き悲しむ時なのである。

「特に教会の最後の働きにおいて、神のみ座の前で傷のないものとして立つ 144,000 が印される時に彼らは神の民と自称している民の悪を最も深く感じる。これは殺す武器を手に持つ者たちによってなされる最後の働きを預言者のたとえ(エゼキエル 9 章)で強烈に描写されている。エルサレム(神の教会)で行われている悪を嘆き悲しむ人々の額にしるしが与えられるのである」3T266-267。

教会への証(英文)などによると、意外な、指導者と思えない者たち、今は隠されている、平凡な者たちが表舞台に出てくるであろう。

日曜遵守令が強要されるとき、大胆な働きが展開される。その時、三天使の使命は、備えられた個人から成り立っている、各々のグループによって展開されるであろう。

美しく着飾った彼らはいつ花嫁としてデビューするのだろうか？

ダニエル、黙示録の預言には、春(過ぎ越しの祭)に出される日曜休業令の前が、最後の備えの時であることを示唆しているところが多くある。

事件3. 先の雨による罪の勝利の経験

「我々は次のことを確信することができる。聖霊が注がれる時、前の雨を受けず、またその真価を認めなかった人々は、後の雨の価値を知り、または理解することもないであろう。」—TM399 (1896年)

ユダヤ制度を学ぶとき、穀物の成長と収穫から学ぶことがある。穀物を成熟させるために、年に二つの雨が必要であった。先の雨、あるいは前の雨が大麦の成長と小麦の成長をもたらし、後の雨によって麦を熟させ、収穫に備えた(先に大麦が熟した)。

雨は、聖霊の象徴である。ヨエルは特にそのことについて述べている。144,000は、福音伝道の働きを完成する先発隊であることは明確である。彼らは春の大麦の収穫で象徴される。一方、第一の封印、白い馬で象徴される(黙示録6:1-2)144,000のグループは、年の秋に、先の雨の時に聖別される(印されるのではなく)。彼らは後の雨が降る時に熟し(TM506)、そして小麦が収穫されることになる。

※金城の意見：144,000と黙示録7:9の「大いなる群衆」は、別のグループではないと思う。備えられた144,000の一部(大麦)が後の雨/大いなる叫びで、バビロンから多くの者(小麦)が出てきて、彼らも144,000を構成する。144,000は、「御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だが、その前に立つことができようか」(黙6:17)との質問に答えるのではないだろうか。

「兄弟方よ、この備えの大いなる働きの時にあなたがたは何をしているだろうか？世と結合している者たちは、世の型を受け、獣の刻印に備えているのである。自己に頼らないで神のみ前で謙遜に、真理に従って魂を清める者は、天の型を受け、彼らの額に神の印を受ける準備をしているのである。法令が發布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、しみのない者となるであろう」5T216。

法令が出る前に、「あなたがた、恥を知らぬ民よ、共につどい、集まれ。…すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう」(ゼパニヤ2:1、3)と勧告されている。

「法令が出る前に(欽定訳)すなわち、もみがらのように追いやられる前に、主の激しい怒りがま

だあなたがたに臨まない前に、主の憤りの日がまだあなたがたに来ない前に」ゼパニヤ2:2。

それは、すでに始まっているだろうか？深い霊的確信の下、福音の働きに備えているグループがいるだろうか？全世界のあちこちで、イエス・キリストに忠実で最後の働きに備えられている人々がいることは確かである。

今は隠されている

「主は忠実なしもべたちを持っておられ、彼らはふるわれて試みられる時に人々の目の前にあらわれる。バアルにひぎをかがめなかった**尊い人々が今は隠されている**。彼らはあなたがたの上に集中された閃光となって輝いている光を持っていなかった。だが、粗野で魅力のない外面の下に真のクリスチャン品性の輝きがあらわされることがある。昼間は天を見ても星は見えない。星は大空に固着してそこにあるのだが、目はそれらを識別することができない。夜になると、本物の星の光彩が見られるのである」最終時代の諸事件105—5T80,81 (1882年)。

聖書は、これらの宗教的な法律が通過すると(明らかに米国で始まる)、備えられた個人個人のグループは、「さあ、花婿が来た」と告知するために出て行って「勝利から勝利へ」前進する。(黙示録6:1-2；ダニエル12:6-7、黙示録11:3参照)

先の雨(前の雨)を受ける者たちの精神は、どんなものだろうか？彼らは「御霊の実」をもっているだろうか？イエス・キリストにのみ栄光を帰す用意があるだろうか？

1. 彼らは、黙示録10章の証人として「小さな巻物」を解読してその内容を明確に知っていなければならない。
2. 彼らは、イエスが、黙示録2、3章の7つの教会に与えられた挑戦に個人的に正しく、はっきりと応ずるであろう。
3. 彼らは、黙示録14章の三天使の使命に神のご品性のあわれみと義が表されていることを、はっきりと、詳細な深い洞察力を持って理解するであろう。

神は、み業を神の力で完成する、霊的で知的な個人個人で構成されているグループを待っておられる。あ

あなたは、今備えつつあるこれらのグループの一員になりたいだろうか？

事件4. 宗教自由を脅かす規制

宗教自由をおびやかす(規制する)法律を作るために、クリスチャンを傷つけ、彼らの確信に挑戦し、彼らの表現の自由を弱体化させるような状況が起こってこなければならない。

最近、アメリカで起こっている例：

1. ある夫人が同性愛の二人組に結婚式の証明書を売らなかった。結果、その婦人は投獄され、後に職を失ってしまった。
2. コロラドのデンバーでケーキ屋さんが同性愛者の結婚式のためにケーキを作ることを拒否した。裁判所は、そのビジネスを閉鎖した。それで最高裁判所に持ち込まれたので、州裁判所の決定を逆転した。州裁判所は再び2018年に彼のビジネスを閉鎖した。
3. 花屋さんの婦人が、同性愛の結婚式のために花を売らなかった。彼女のビジネスは閉鎖される羽目に陥った。

ある判事や弁護士たちは、クリスチャンに嫌悪感を持っている。特にアリゾナ州でそれが顕著に現れた。

Family Research Council と Liberty Institute からの新しい調査によると、クリスチャン系アメリカ人に対する敵意は驚くほどの速さで成長している。Liberty Institute の Jeff Mateer : 「昨年調査は600件のケースに基づいていたが、今発表しているこの調査は約1,200である。たった1年でほぼ2倍になった」。

<https://www.charismanews.com/us/41373-study-anti-christian-faith-sentiment-growing-at-breakneck-speed>

事件5 不道徳の蔓延

「各時代の^{大争闘}下巻」349ページによると、社会道徳の低下が日曜休業令の一つの原因になると言われている。興味深いことに、「獣」の傷が癒されて(1929年)後、6年後に、文化マルクス主義がニューヨークのコロンビア大学を通してアメリカに侵入し始めた。それは、ドイツのフランクフルトで始まった。その思想がアメリカを変えてきた。

それは、キリスト教を弱体化し、青年たちの間に性の自由を促進することを意図していた。大学生たちは、性の自由を文化の容認として教育された。

その運動とアメリカでの反クリスチャン精神が爆発

的に発展したことは直接的な関係がある。

政治、暴力、ヘイトスピーチ(集団や個人を憎悪して、差別したり、けなしたりする発言)、クリスチャンの確信等は、クリスチャンと主張する者の数を減少させ、性の尊厳を打ち砕き、同性同士の結婚を容認する等々のことが宗教自由を制約する法律を必要とする方向に傾けている。憎悪、混乱、不安、性の乱用が世界に浸透し(特にアメリカにおいて)、社会を腐敗させている状況を修正する「文化的必要」を希求するよう導くようになるであろう！

「今日の宗教団体は、聖書の中に明白に示されている俗受けのしない真理に耳を傾けようとしなさい。そしてその真理と対抗するために、懐疑論の種を広くまくことになった解釈と立場を採用した。……宗教界の指導者たちの教えは、不信仰への道、心霊術への道、そして神の律法に対する軽べつへの道を開いてきた。だから、今日のキリスト教界に存在する不法の恐るべき責任は、これらの指導者たちにあるのである。

ところがこの階層の人たちは、急速に広がっている墮落は、主としていわゆる『キリスト教的安息日』を汚すことにその原因があるのだから、日曜日遵守を強制することが社会道徳を大いに向上させるであろうと主張する。この主張が特に強調されるのは、真の安息日の教理が最も広く宣傳えられてきたアメリカにおいてである」大争闘下348-349。

国の指導者の不道徳は、国々に目立ってきたが、アメリカでは特にそうだ。そもそもトランプ大統領が最高裁に強引に支持したカバノー氏の性的スキャンダルがマスコミでたたかかれても、当たり前のアメリカになってしまった。

事件6 世界は10に分割される

1942年に、国務省と国際平和のためのカーネギー基金は、世界を10に区分している。この地図は、ローマクラブによって練り上げられた。それは、新世界秩序のための地政学の枠組みになった。

その目標は、決して変えられず、そして「統合された世界」アジェンダのための押し合いへし合いが続いている。すべてそれらの10の部門に基づいている—10本の角を持つ獣に類似している(黙示録13と17)。

しかし、これらの10に区分された国々には「頭」がないといけない。聖書はどのように成りたっていくかを述べている：

「あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受ける。彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える」。17:12-13

答はここにある！法王教という獣が世界の頭になるのである。我々は、これらの10の区分は、多くの地政学的な地図から成り立つことを知っている。その獣こそ「教皇庁」と呼ばれるものである。黙示録13章の「海から上ってくる獣(海獣)」の角に冠がついているということは、地政学的な秩序が成り立っていることを示している！



預言によると、これらの10の地域への連合に進んでいる。その成就を待っている。今日の世界の混迷は、新世界秩序構築の前兆である。そのことが実現する時には、新しい道徳秩序に基づく宗教的な権力が出現するであろう。

そこで、きわめて重要な問題となるのが安息日問題であると聖書は言っている。

事件7. 全世界は驚きおそれて一人の頭に従う方向に動く

ヨハネ・パウロ二世もベネディクト16世も以前に世界は道徳的指導者が必要だと語ったことがあった。彼らの意味することは、もちろんそれは、法王だということである！

ビリー・グラハムの言葉：「ヨハネ・パウロ二世法王は世界の道徳的指導者」カトリックニュース <https://catholicherald.co.uk/news/2018/02/21/cardinal-dolan-leads-tributes-to-billy-graham/>。

法王ベネディクト16世は、カトリックの聖職者たちの幼児性虐待の告発があまりにも多く噴出したため退位に追い込まれたが、法王フランシスコは、セックススキャンダルの批判を実に上手くかわしている！



世界の要人たちがバチカンでほとんど毎週と言っていいほど、彼と会っているということを過小評価してはならない。

フランシスコ法王は、世界の指導者として最も多くの人にツイッターしている。世界はその影響力に驚きおそれている。

事件8. 十戒に対する関心が高まる

宗教的な法律が作られるに先立って、十戒に対する関心が高められる。ほとんどのクリスチャンにとって道徳的な行動の原則であるから。

この20年間、十戒を公に表示することに対して、反対し、抗議する法的な訴訟が増えてきた。あるケースは米国最高裁にまでも持ち込まれた。

<https://www.law.com/nationallawjournal/almID/900005424448/The-Ten-Commandments-at-the-Supreme-Court/?slreturn=20181007190031>

これまでしばしば、抗議デモによって十戒の記念碑が取り除かれてきた。オクラホマの州議事堂から、公園から、公立学校からさえも。テキサス州、ユタ州、アラバマ州、ミシシッピ州、ニューメキシコ州、メリーランド州、ケンタッキー州においても。

カトリック教会はこのことに対して一見反対意見を述べてきた：「十戒はあまりにも『宗教的である』と[世俗社会から言われることに対抗して]」。

「盗みをしてはならない」のどの部分が特に宗教的だろうか？ どの文化、異教徒の文化さえ、親と年長者への敬意を必要としないものがあるだろうか？ 「人を殺してはならない」という戒めが宗教的だと言えるだろうか？ 宗教人でない一般人も殺人の戒めについては何の問題もないはずだ。

同じように、偽りや姦淫、他人の妻や持ち物をむさぼることがいけないことも、問題なく認められている。どの時代でも、世界中のたいの場所で、このような事について禁止令が

あつた」。 <https://www.law.com/nationallawjournal/almlID/900005424448/The-Ten-Commandments-at-the-Supreme-Court/?slreturn=20181007190031>

カトリック教会は、十戒は宗教的なもので非常に重要のように見せかけているが欺瞞である。彼らは決して第七日安息日のことには言及しない。

十戒の戒めは世俗でも重要であると言われている：

「プラトンとアリストテレスと他の異教徒の哲学者は、これらの基本的な道徳の価値を受け入れていた」。 <https://www.thecatholicthing.org/2016/09/24/the-ten-commandments-and-natural-law/>

これらの無神論者たち、ウィツカン(魔術崇拝者たち)、ACLU(アメリカ市民的自由連合)と他の人たちが問題としているのは、これらの戒めに神ということが言及されるということである。もしアメリカにおいて、諸事件が相次いで起こってどうにもならない時に、神に助けを求めなければならないとすれば、どうなるだろうか？それはいいことではあるが、日曜休業令の設立という預言の成就に向かうことであろう。

事件9 宗教的法律発布への希求

神の民が今こそ知っていなければならないことは、ダニエル8章、11章、12章にある預言は、安息日に反する宗教的法律が発布されるようになるということである。すなわち反キリスト(小さい角、卑しむべき者、後に「北の王」と呼ばれる)が安息日に礼拝することを禁止する法律を通過させることである。それは安息日遵守者たち、神の教会、そして十戒の一部に対する憎しみの故である(ダニエル8章)。

この問題は、更に展開されて、神の契約と神の民の福音伝道の働きに抵抗しようとする(ダニエル11章)。そして、直接に安息日につながり、ついには、聖徒たちが迫害されるであろう。

この抵抗、敵対は、マタイ24章にキリストが言われた安息日、すなわち「荒廃をもたらす」「憎むべきもの」のことである。

安息日はどうしてそれほど重要なのだろうか？それは、十戒の一部であり、そこに①神の権威、②神の契約、③神の律法があるからである。「憎むべきもの」とは欽定訳では「違反」と訳されていて、ヘブル語では「ペシヤ」と言う。罪とは「律法違反」またはヘブル語のペシヤは神の権威、律法、そして契約に対する反逆を意味する。神の権威、律法、契約は安息日に見いだされる。つまり、神の安息日に対する反逆である。

これらの章には神が憎まれる宗教的法律、神が書かれた十戒の一部(常供=安息日)が取り除かれること

になっている(ダニエル11:31, 12:11)！

神のみ業完成を助ける民は、前もってこの日曜休業令問題が重要な論点であることを、単にE.G. ホワイトからでなく、聖書から知っていなければならない！聖書から日曜休業令がいかに自由を束縛する恐ろしい法令であることを証明できる準備をしていなければならない。

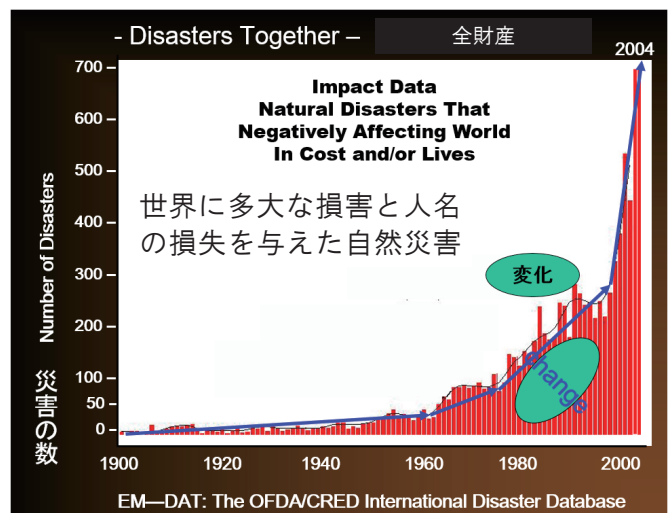
事件10 どうにもならない災害の続発

神の聖日(日曜日)を守らないからだとの声が高まる。



「キリストとその天使たち及びサタンとその天使たちの間にやってくる**闘争の最後の大きな争いは、神の律法に関するものであり、それは全世界を終局に導くものである**。…責任ある地位にいる人々は、安息日を無視したり、軽んじるばかりでなく、**神聖な講壇から、週の第一日を遵守するよう人々に勧め、この人間の作った制度のために伝説や慣習を強調するだろう**。彼らは**陸地や海上の災害、すなわち、暴風、洪水、地震、火災をさし、日曜日をきよく遵守しないための、神の不快を示すさばきとするだろう**。これらの災害はますます増加し、次々に続く。そして神の律法を無効にする人々は第四の戒めの安息日を守っている少数の人々を世に怒りをもたらす者として指摘する。…このいつわりは、軽率な者をわなに陥れようとするサタンの計画である」サザン・ウォッチマン・1904年6月28日。

この問題は、ダニエル8章にある「ペシヤ」というヘブル語の言葉と結びつく。



災害の頻発は、神に向かって助けを叫び求めて、宗教的法律を希求する引き金となる。

だから、キリストが「産みの苦しみ」として戦争、災害が起こると言われたのも不思議ではない（マタイ 24：7-8）。それからイエスは、そのあとのことはダニエル書に見出せと言われたのである。

災害の続発にお手上げ状態となり、助けを神に求め神の聖日（日曜遵守）に導かれる。



事件 11 気候変動-環境問題

フランシスコ法王は、地球の温暖化に関して新世界秩序の強い必要感を持っている！バチカンでは、2018年12月にポーランドで持たれた国際気候変動の問題に関して強い懸念を示した。

フランシスコ法王と気候変動 Christian Today, Japan

【C J C】ローマ教皇フランシスコは9日、世界の石油大手の関係者に対し、気候変動により世界の人類文明が消滅する危険について警告を発した。

フランシスコ教皇が気候変動に対する国際的な行動を「回勅」で呼びかけ <https://www.kiconet.org/kiko-blog/2015-07-21/1595>

フランシスコ教皇の呼びかけは、個人、家族、地域社会、国、国際コミュニティまであらゆる対象に向けて、環境問題について有意義な対話と協議を行い、方向性を変えていくよう、積極的に介入するよう求めている。

ローマ教皇フランシスコ、環境問題と戦うスーパーヒーローに？ https://www.huffingtonpost.jp/2015/06/17/pope-francis-climate-change-fighting-superhero-n_7608722.html

回勅「ラウダート・シ」から3年、バチカンで国際会 <http://ja.radiovaticana.va/news/2018/07>

「太陽の賛歌」の中の言葉「ラウダート・シ、ミ・

シニョーレ」

世界に衝撃拡大…ローマ法王「最後の審判の日が到来」 地球温暖化に異例の警鐘 産経ニュース



ローマ法王、迅速な温暖化対策を呼び掛け 全世界に向け「回勅」

「回勅」とは、カトリック教会の教義の指針となる原則を集めた文書。法王は、地球上の全ての人に向けた今回の「回勅」の中で、人間の強欲さ、新しいテクノロジーと進歩への自滅的な執着によって、「われわれの姉妹である母なる地球」が危機的な状況に陥っていると、強い語調で非難した。

Climate Change Isn't A Political Issue. It's A Moral Reality. June 01, 2017 <https://www.wbur.org/cognoscenti/2017/06/01/paris-accord-donald-trump-steve-almond>



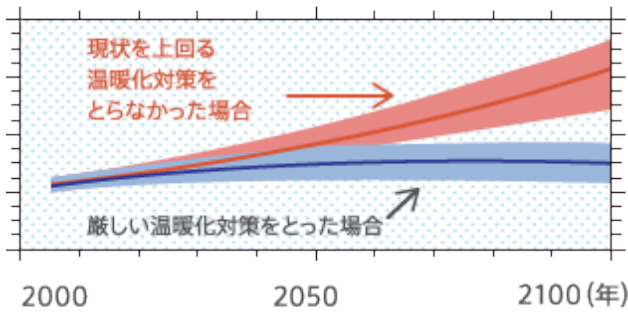
バチカンのサンピエトロ広場に集まった聴衆に手を振るローマ法王フランシスコ。地球温暖化に警鐘を鳴らす発言が共感を呼び、世界に波紋を広げている=17日（ロイター）

「気候変動に対処しなければ、世界は12年で終るでしょう」とアレクサンドリア・オカシオコルテスは言っている。アメリカの史上最年少女性下院議員が叫びだした。



陸域と海上を合わせた世界平均地上気温は、1880年から2012年の期間に0.85℃上昇しました。

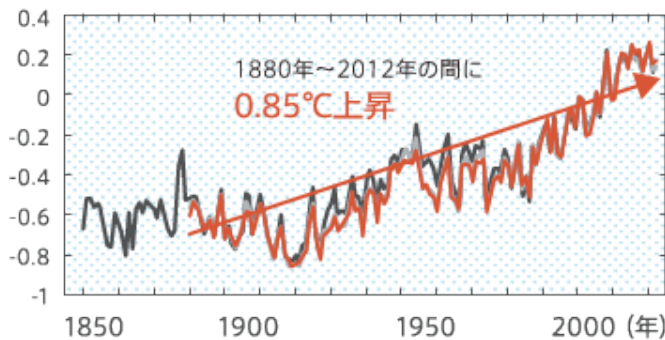
1986年～2005年平均気温からの気温上昇
(産業革命前と比較する際は0.61℃を加える)



出典：IPCC第5次評価報告書 統合報告書
図SPM.6 (a) より環境省作成

2081～2100年の平均 ■ 2.6～4.8℃上昇 ■ 0.3～1.7℃上昇

(℃) 世界平均地上気温(陸域+海上)の偏差



出典：IPCC第5次評価報告書 統合報告書
政策決定者向け要約 図SPM.1(a)より環境省作成

また、最近30年の各10年間は、1850年以降のどの10年間よりも高温でした。1880年に観測が始まって以来、2015年は世界の平均気温が過去最高を記録し、最も暑い1年になりました。(NOAA/NASA 発表)

事件 12 大衆の要求—世論が作られる

社会の退廃が恐ろしいほどの時点に達すると、文化を抑制しようとする声上がる。



社会を修正しようとする文化的マルクス主義を覚えているだろうか？

※「文化的マルクス主義」の意味：

労働者の運動からマルクス主義がほとんど姿を消した一方で、マルクス理論は、今日において、文化施設やアカデミズムの世界やマスメディアで隆盛を誇っている。この「文化的マルクス主義」はグラムシとフランクフルト学派にまでその源を溯ることができる。マルクス主義の理論家は、プロレタリアートが革命の主体として期待されるような役割を果たさないことを理解した。それゆえ、起こるべき革命のために、革命運動は文化的リーダーに頼らねばならなくなった。既存の文化（主にキリスト教徒のもの）や道徳を破壊し、混乱した大衆に共産主義を新しい信条として受け入れさせるためである。この運動の最終目標はマルクス主義知識人が最終決定権を持つ世界政府の樹立である。

社会道徳退廃がひどくなり、災害続発の故に、大衆が変革を求める！

「教会と国家の高官たちは、すべての階級の人々に日曜日を尊重させるために、結束して買取や説得や強制を行なうであろう。神の権威の欠如は、圧制的な法令によって補われる。政治的腐敗は、正義を愛し真理を尊ぶ思いを破壊しつつある。そして自由の国アメリカにおいてさえ、為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する」大争闘下 357。

「この階層の人たちは、急速に広がっている墮落は、主としていわゆる『キリスト教的安息日』を汚すことにその原因があるのだから、日曜日遵守を強制することが社会道徳を大いに向上させるであろうと主張する。この主張が特に強調されるのは、真の安息日の教理が最も広く宣べ伝えられてきたアメリカにおいてである。…。虚偽を、それをもっともらしく見えるようにさせるに足るだけの真理と結合させることが、サタンの策略の一つである」大争闘下 349。

聖書もまた、この問題の解決は、宗教制度を強要する法律を要求するというのである。

真の安息日(常供=タミド)は取り除かれ、偽りの安息日(憎むべきもの)が法律化されることになる。

事件 13 司法積極主義

※ 司法積極主義とは、司法、特に最高裁判所が憲法判断により法令を拡大（過大）解釈することによって事実上の立法や行政の機能を果たすことを言う。

黙示録 13 章の預言によると、日曜休業令がまずアメリカにおいて発布されて、世界中がそれに従うことになっている。今、最高裁の決定が強くなって議会を通さないで発布される可能性がある。

アメリカにおいては、信教の自由を妨げるであろう法律を通過させるために、個人の信念と個人の選択による礼拝の自由が、憲法に悪影響を及ぼす場合に司法の積極行動主義を必要とする。

ただ議会だけが作るべきである法律を、裁判官が作るということが始まっている。

アメリカの裁判所は「司法積極主義」であり、国の政策や社会的に重要な争点について積極的な裁定者となる傾向がある。アメリカのトランプ政権の連邦最高裁人事に注目が集まっている。際どい判断の雌雄を決していた中道派判事ケネディ氏が引退したため。



アメリカの最高裁判事は 9 人である。終身制である。自ら引退するか、死去するまで判事であり続ける。ケネディ米国最高判事長が引退して保守派、カトリックのカバノーが任

命された。

上智大学総合グローバル学部教授前嶋和弘氏の言葉：

「2018 年、7 月 9 日には首都ワシントン連邦巡回区控訴裁判所のブレット・カバノー判事が指名されたが、この人事が承認されるかどうかで、アメリカ政治・社会が一変していく可能性もある…。



アメリカの最高裁は、違憲か合憲かの判断を日本の最高裁よりも積極的に行い、国の政策や社会的に重要な争点に介入する傾向がある。このため最高裁判事は、米国の政策の方向性を左右し、実質的な政治のアクターとして重要な役割を担っている。…高度な政治的な判断を要する争点については、司法独自の判断を控える日本などの諸国と比較すると、アメリカの裁判所は『司法積極主義』であり、国の政策や社会的に重要な争点について積極的な裁定者となる傾向がある…政治に深く関与しているのがアメリカの最高裁判事である…終身制のため、かなり長期的にアメリカ社会を変える可能性がある。これはトランプ大統領にとっては、自分の任期を大きく超え、最高裁を通じた永続的な『保守革命』を達成できる機会でもある」。 <https://news.yahoo.co.jp/byline/maeshimakazuhiro/20180709-00088666/>。そのためにトランプは、強引に自分に都合のいい、カバノー氏を最高裁判に入れたのであろうか。これも異例であった。トランプの原動力である、キリスト教福音派、保守派が多数を占めるようになった。

1 人目は 2017 年 4 月 10 日に就任したゴースッチ判事（自分自身はカトリックというが、聖公会かカトリックかは不明—保守派であることは確か）、2 人目が 2018 年 10 月 6 日、大騒動の末に就任したカバノー判事（カトリック）である。現在は 9 人中 6 人がカトリック、3 人はユダヤ教となっている。最高裁判所長官はカトリックである。

この司法積極主義システムは、憲法破壊への道を開くことになるであろう。

事件 14 暴動の続発

貧富格差、人種問題、移民問題等による暴動が世界中で流行している。

フランスで 2018 年 11 月 17 日から政府への大規模の抗議活動。黄色いジャケット運動ともよばれる。

2018 年 5 月にオンラインで開始され、2018 年 11 月 17 日にフランスではじまった。工業化が進んだ隣国ベルギーの南部のワロン地域にも急速に広まった。

2018 年 12 月はじめ、シンボルはヨーロッパからイラクに至る諸国においてより共通のものとなった。異





アメリカの人種差別運動

なる国の、異なるグループが彼らの主張に注意を引かせるため、このヴィジュアルックで目を惹くベストを着用した。

抗議者（農村部や都市部周辺の人々）は「燃料価格の上昇」、「生活費の高騰」、「政府の税制改革の負担が労働者や中産階級に及んでいること」を主張している。彼らは「燃料税の削減」、「富に対する連帯税（solidarity tax）の再導入」、「最低賃金の引き上げ」、そして「マクロン大統領の辞任」を要求している。

事件 15 米国経済問題

預言によると、神に忠実な者たちに復讐の精神が向けられることははっきりしている！ダニエル、黙示録、そしてマタイ 24、マルコ 13、ルカ 21 にある終末預言によれば、迫害へとみちびかれることになっている。その理由の一つは、アメリカの経済的困難である。

「海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雹、あらし、洪水、たつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、ききんと困窮を引き起こす。……

しかもこの大欺瞞者サタンは、神に仕える者たちがこれらの災害を引き起こしているのだと、人々に説く。天の神の不興を引き起こしてきた人たちは、すべての災いを、神の戒めに服従することによって絶えず違反者たちへの譴責となっている人たちのせいにする。日曜安息日を犯すことは神を怒らせることであり、この罪が災害をもたらすのであって、それは日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される。また、第四条の要求を主張して日曜日尊重を傷つける者は民を悩ます者であって、神の恩寵とこの世における**繁栄の回復**とを妨げている、と宣言される」大争闘下 352-353(残念なことに日本語訳には〔回復〕という言葉がない)。

「**繁栄の回復**とを妨げている」とは、何を意味するか。アメリカは日曜日を遵守する前に経済不況に陥ることを意味するのではなかろうか？

ダニエル 11:45 の預言を思い出してほしい。反キリスト、北の王がついに終わりに至る前にどんなことが起こるだろうか？

「彼は金銀の財宝と、エジプトのすべての宝物を支

配し、リビヤびと、エチオピヤびとは、彼のあとに従います」11:43(エジプトは悪の世を象徴している)。

バチカン銀行は、全世界の銀行を管理している国際決済銀行と直結している。この預言は間もなく成就するであろう。

我々は世界の富がバチカン銀行とつながりがあることに注目していなければならない。世界経済の不安定から回復を願う叫びが、特にアメリカにおいて見られるであろう。

事件 16 強力な米国大統領

世界的な力を極端に行使する指導者が台頭する必要がある(黙示録 13 章の地から上ってくる獣)。その権力の行使は、アメリカばかりでない：

1. ローマ法王を強く支持する。
2. それは、ついには、日曜日問題を拒否する者たちに死をさえ課すことをもいとわぬ。

事件 17 サタンが光の天使として現れる

「最終時代にサタンは、天の栄光を帯びた光の天使として現れ、全地の主と称するであろう。彼は、安息日は週の第七日から第一日に変えられたと宣言する。そして週の第一日の主として、この偽の安息日を自らへの忠誠の試金石〔テスト〕とするであろう。それから (then)、黙示録の預言が最終的に成就する。『また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた』(黙 13:4-5)」19MR282。

事件 18 プロテスタントの合同運動—エキュメニカル運動

アメリカのプロテスタント教界において日曜休業令を要求する声の一つとなつてあがることにならなければならない。

「合衆国の新教徒は、率先して、心霊術と手を結ぶために淵を越え



て手を差しのべる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである」。大下 350



福音派のキリスト教会の指導者たちは、宗教自由について法王と話合っている。



ヨハネ・パウロ二世の訪米、ベネディクト 16 世の訪米

2015 年のフランシスコ法王の訪米。

サドルバックメガチャーチ教会の指導者、リック・ウォーレン牧師は、法王に謁見して後に「彼はすべてのキリスト教会の法王である」と言った。<https://www.nowtheendbegins.com/rick-warren-says-pope-francis-poses-christians-worldwide-videos/>

米国最大のメガチャーチである、テキサス州ヒューストンにあるレイクウッド教会のシニア牧師は、法王は世界の宗教を一つにする偉大な尊敬すべき人と讃えた。

事件 20 アドベンチスト教会内における分断

「教会の中に分裂が来るであろう。二つの派(党派、隊列)が発展するであろう。麦と毒麦が収穫の時まで育つであろう」 2SM114。

「間近に迫っている大論争点 [日曜休業令の施行] は、神が任命なさらなかった者たちを取り除くであろう。こうして神は、後の雨のために準備された純粹で真の清められた伝道の働きをお持ちになるのである」 3SM 385 (1886 年)。

「試練が激しくなるにつれ、信者の中に分離と一

致が見られるようになる。真の危機の中で戦いの武器を取る用意ができた者たちの中に、堅固な岩の上に立っていない者たちが現れる」 6 T 400。

「賞賛される多くの星 (指導者) たちが追いやられる」「最後の働きに偉い人はわずかししか携わらない」 5 T 80。

5T 80, 81 によると日曜休業令が出て出陣する人たちは「今は隠されている」と言われている。

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じて公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶように準備されているのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らを中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」 大下 378 (1911 年)。



奇跡の農場

エイミー・シェラード
私の聖書が一番！8巻より抜粋

おとなの男の人は、めったに泣くことはありませんね。でも、もしあなたがある夏の日に、テネシー州のマディソンの近くにある、むき出しで石だらけの土地にいたならば、照りつける太陽の下で岩の上にこしかけて泣いているふたりの男の人を見たことでしょうか。

「こんなこと、私たちには無理だ」と、鼻をかみながら、ひとりが言いました。

「ああ、わかっている」と、もうひとりも涙をぬぐいながら言いました。「ここは無理に決まっている。この岩だらけの土地を見れば、何も育たないのは明らかだ。」

「それに、この土地を買うためのお金を、どこからもってくればいいんだ？」最初の男が頭をふりながら言いました。

「たしかにそうだ。彼女が私たちに望んでいることを実行するためのお金はどこにもないし」と、もうひとりも言いました。「でも、これから私たちはどうすればいいのだ？この場所にイエス様は学校を建てることを望んでおられると、彼女は言っている。ここは、他の学校が真似したくなるような農場になるんだとか。しかも、彼女のメッセージがイエス様から来たものだと思える信仰をもっていけば、それは必ず実現するはずだと私たちも知っている。」

「また、したがわれないことを選んだら、いつでもかかわらず問題が起きるんだ」と、もうひとりの友人は言いました。「だけど、いくらなんでもこの土地は！」

ふたりの名は、エドワード・サザーランドとパーシー・マギーン。ひとりにはミシガンにある大学の学長で、もうひとりと同じ大学の学部長でした。彼らの会話に出てきた「彼女」とはホワイト夫人のことで、そこからあまり遠くない船の上で忍耐強く待ち、祈り

つづけていました。彼女は、イエス様が言われた彼らのなすべきことを、彼らが信じられないでいるのを知っていました。

ふたりの青年は、日の照りつける野原にすわり、しばらく考えこんでいました。とうとう、ひとりが切り出しました。「たしかにこれは不可能に思われるけれど、やっぱり、したがうべきだと思う。君はどう思う？」

「そうだな、わたしもそれが正しいと思うよ」と言って、もうひとりはずきましました。「じゃあ、いっしょに祈ろう。」ふたりは、からからに渴いた土と、岩だらけの地面にひざまずき、自分たちにもっと信仰を下さるようにとイエス様にお願いしました。それから立ち上がり、この土地の所有者である老人とその妻の家へ向かいました。老夫婦は、この土地を12,000ドルで売ると話していましたが、エドワードとパーシーは、彼らが値段を下げてくれることを願っていました。

しばらく話し合った後で、地主の男性は、もし今日100ドル払ってくれたら、10日後に5,000ドル払うだけでよい、と言ったのでした。

ふたりは顔を見合わせました。「100ドル？」自分たちの財布を引っぱりだして、全部でいくらお金があるかを確認しました。なんと、合わせてちょうど100ドルでした。

彼らは100ドルを老夫婦に支払い、ホワイト夫人が待つ船へもどりました。何があったかを報告すると、ホワイト夫人はにっこりしました。彼らがイエス様に信頼する決心をしたことを、彼女はどれほど喜んだことでしょうか！ところで、たった10日の間に、残りの5,000ドルをどうやって手に入れたらよいのでしょうか？彼らは、もうお金はありませんでした。残りの5,000ドルが支払われるためには、奇跡が起こるしかありません。しかし、彼らがイエス様にしたがった



ので、ホワイト夫人は何も心配しませんでした。

エドワード・サザーランドにはお金持ちのおばさんがいたので、彼はおばさんと話してみることにしました。もしかしたら、彼女が援助してくれるかもしれません。彼女の名は、ネリー・ドゥルイラードといいました。もし彼女に断られたら、ほかにあてはありませんでした。

エドワード・サザーランドとパーシー・マギヤーンは、10日のうちにどこで5,000ドルを手に入れることができるのでしょうか？エドワードは、お金持ちのおばさんである、ネリー・ドゥルイラードと話してみることにしました。

ネリーおばさんは、甥の顔を見て頭を横にふりましました。「いったい、あなたたちは何を考えているの？」と彼女はたずねました。「こんなばかばかしい計画に首をつっこむなんて、どうかしているわ。あなたたちはお金がない上に、その農場ときたら、どうにもならない土地だっていうじゃないの。」

エドワードはうなずきました。「ええ、わかっています、おば様。実は、私たちもおば様と同じように思ったんです。それで、このことにはもう関わらないでおこうと決めていたんです。でも、やはりイエス様が私たちにしてほしいとお望みになることをしようと決心したのです。それで、おば様に助けていただけたらと思ってきました。」

エドワードのおばさんは、その農場について彼から聞いたことを思いめぐらしていました。それから、こう返答しました。「いいえ。それがうまくいくなんて、とても信じられないわ。わたしのお金をそれにつき込むつもりはありませんよ。」

当然、エドワードはがっかりしてしまいました。「そうですね、それなら」彼はこうつぶやきました。「他のところをいくつかあたってみます。パーシーと私は、これからもイエス様にしがうつもりです。」エドワードが帰ろうとしたとき、ネリーおばさんが彼を呼びとめて、「じゃあ、こうしましょう」と言いました。「わたしがその農場へ行って、この目で確かめてきましょう。」そして、彼女はそうにしました。

エドワード・サザーランドと彼のおばさんがその農

場に着くと、パーシーとホワイト夫人、ほかにも教会役員が何人か来ていました。「もうだめだよ」と、パーシーはエドワードに言いました。「地主の奥さんが、あと1,000ドルほしって言うんだ。」

これを聞いて、エドワードのおばさんはほっとしました。「この土地を買わずにすんでよかったわ！」彼女は大きな声で言いました。

ホワイト夫人の目がひかりました。「よかったですって？1,000ドルのために、サタンに神様のご計画を台無しにさせはしませんよ。ネリーさん、お金を支払って下さい。ここは、主からぜひとも買うように言われている土地なのです。」

ネリーがお金をわたすと、ホワイト夫人は彼女に、ある約束をしました。「ネリーさん、あなたはもう年老いて、この先長く生きられないので、そろそろ働くのをやめようとなさっていますね。それに健康状態も良いわけではありませんから。でも、もしあなたがエドワードとパーシーの面倒を見て、イエス様が彼らになしとげてほしいことを援助して下さるなら、神様はあなたに健康と力をお与えになって、これまで以上のことをさせて下さいますよ。」

何というすばらしい約束でしょう。ネリーはそれを信じることに決めました。

神様はご自分の約束をはたされたのでしょうか？もちろんです。この農場の土地は、良い作物を実らせられたのでしょうか？ええ、もちろんですとも。学校が建てられ、マディソン大学と名づけられました。また、療養所も建てられました。エドワードとパーシーは、療養所を手伝うために、ふたりとも医者になりました。また大学では、病人のお世話をする看護師を養成しました。今や「マザーD」と呼ばれるようになったネリーは、できるかぎりの援助をしたのでした。彼女は長生きしたと思いますか？もちろんですとも。彼女は、90歳代まで長生きしました。

イエス様がホワイト夫人に示されたメッセージに信頼し、それにしがったエドワードとパーシーの生涯は、十分に報われたのでしょうか？イエス様が、私たちのために彼女に示されたメッセージに信頼し、しがうことは、わたしたちにとっても価値のあることでしょうか？





花嫁を構成する個人個人

やがて花婿、 来たりたまわん！ 婚姻＝神性と人性の結合はいつ？

金城重博

花婿イエス・キリストは、ご自分の花嫁なる教会の用意が出来たら迎えにおいでになる！

「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、**清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである**」エペソ 5:27。

「わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。**小羊の婚姻の時**がきて、**花嫁はその用意をしたから**である。彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」黙示録 19:7、8。

婚姻の時に用意ができると言われている。では、婚姻の時はいつだろうか？

ある牧師が説教でキリストは、再臨なさる時、結婚式に来られると言われたので、私は礼拝が終わって、再臨の時は新婚旅行であって、婚姻＝結婚式は、再臨の前に終わっているのではないですかと言ったことがある。

キリストと聖都が結婚するとはどういう意味か。天父からみ国を受けるとはどういう意味だろうか。

キリストはご自分の教会を妻、花嫁として聖書に描いておられる。特に雅歌書に。教会は、真の聖なる都であり、天にある「新エルサレム」とも呼ばれている。天にあるエルサレムは、各時代の忠実な神の民によって構成されている普遍的な教会である。各時代の神の民は「エルサレムの娘」「シオンの娘」と呼ばれている。神の子らは新エルサレムの一部である。教会は、妻とか花嫁とかおとめと呼ばれる時がある。信者はそこに名前が登録されている。パウロは次のように言っている：「わたしは神の熱情をもって、あなたがたを熱愛している。あなたがたを、きよいおとめとして、ただひとり男子キリストにささげるために、婚約させたの

である」二コリ 11:2。

「教会は小羊の花嫁であり、妻である。すべての真の信徒はキリストの体の肢体である。…もし彼女がこのことを理解したら、彼女の内にはあらゆる栄光が留まるであろう」スタディバイブル新596。「教会はキリストの花嫁であり、妻である。…」同。

我々はキリストの教会のメンバーとして、個人的に永遠の契りを結ぶ。教会は個人で構成されているのであるから、至聖所においてこの永遠の契りに入る。もし忠実であるなら、キリストと父の名と新エルサレムの名が記される(黙示録 3:11、12)。

「**婚姻は、人性と神性との結合をあらわし、礼服は、婚宴にふさわしい客と認められる者がみな所有しなければならぬ品性をあらわすのである**」実物教訓 287。

アドベンチストは、キリストが1844年に天の至聖所に入られたのは、すなわち「最後のあがない」のため、新エルサレムと結婚するためだということを知っているはずである(ダニエル 7:13;8:14;黙示録 19:7,8;21:9;初代 125、410;142,143)。

「あがない」を英語で“at-one-ment”という。一つとなるという意味。イエスは、結婚を「一体」と言われた。「人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」マタイ 19:5。

至聖所において、最後のあがない (final-at-one-ment) がなされることを「**婚姻**」と言われている。大争闘下 137、145、211。

「マタイ 22章のたとえにおいて、同じ婚姻の象徴が用いられ、**婚姻**に先だって**調査審判**が行われ

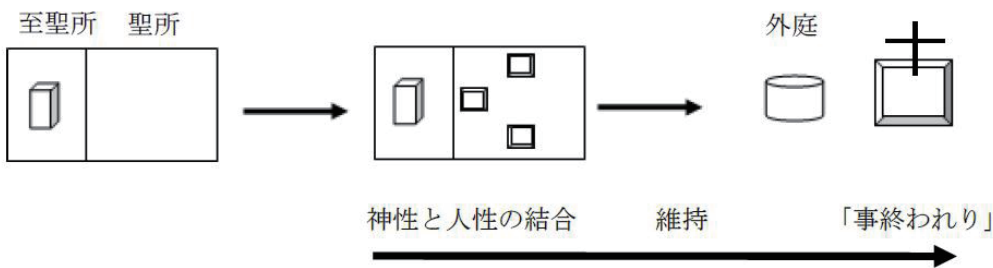
ることが明示されている」大争闘下 145。

「1844年に、天の至聖所にはいり、彼の仲保の働きによって恵みにあずかるすべての者のために**最後の贖い (final- at-one-ment)**をなし、こうして、**聖所をお清め**になるのであった」初代文集 413。

「イエスは、失望した人々の心を至聖所にむけるために、彼の天使たちをお送りになった。彼は、**聖所を清め**、イスラエルのために**特別の贖い**をするために、そこに入られたのである。イエスは、彼を見いだす者はみな、彼がなさるべき働きを理解するであろうと、天使たちに言われた。わたしは、イエスが、至聖所におられるときに、**新エルサレムと結婚**なさることを見た。そして、至聖所における働きが終わったあとで、王の権威をもって地にくだり、忍耐深く彼の再臨を待望していた貴重な人々を、ご自分のところにお迎えになるのである」初代文集 410。

「キリストは、ご自身の民のために贖いをなして彼らの**罪を消し去り**、**み国を受けて**おられた。み国の民はもうできあがっていた。小羊なるキリストの**婚姻**は終わった。「国と……全天下の国々の**権威とは**」みなイエスと救いを継ぐ者とに与えられ、イエスは王の王、主の主として治められることになった」初代文集 452。

キリスト：神の御座 (至聖所) から十字架への道



「『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうと

しない経験—が必要なのである。…

キリストは受肉されて、生涯、自分自身では何もできないと言われ (ヨハネ 5:30)、神性と人性の結合を維持なさるために、一瞬も天父から離れなかった。

「キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙をもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれられたのである。彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての

人に対して、永遠の救の源とな」られた (ヘブル 5:7-9)。こうして罪のない生涯を送られた。聖所の中の三つの器具—香壇 (祈りと願い)、パンの机 (み言葉)、7つの燭台 (聖霊)—によって罪に勝利された。

キリストによって成し遂げられた贖いの働きが我々に適用されるために、天の聖所の働きに入られた。「その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさきがけとなって、はいられたのである」ヘブル 6:20。

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである。われわれは、信仰によって、『わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた』幕の内に入らなければならない (ヘブル 6:20)。そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。そこにおいて、われわれは、贖罪の奥義について、もっとはっきりした理解を持つことができる。人間の救済は、天が無限の価を払うことによって達成された。払われた犠牲は、破られた神の律法の最大限の要求に相当するものである。イエスは、父なる神のみ座への道を開かれた」大争闘下 222。

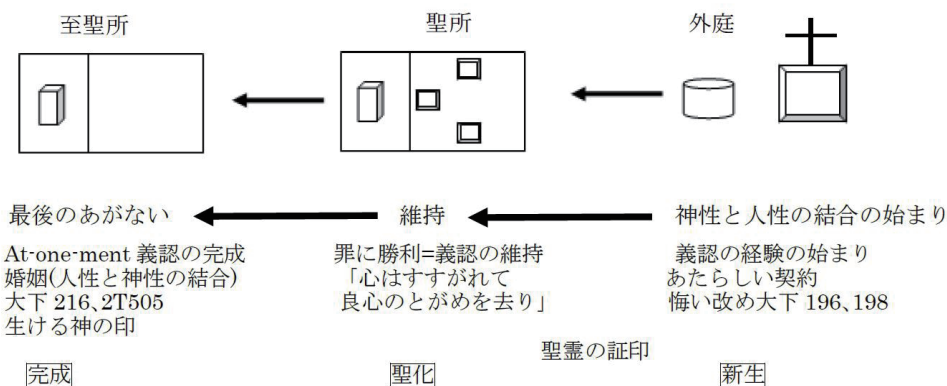
キリストは、神性と人性の結合が一瞬たりとも断たれなかったので、罪がなかった。

今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全なることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれをういて誘惑の力を表わす……。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サ

タンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、**悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである**」大争闘下 396-397。

至聖所において、人類の恩恵期間が終了する時に結婚式、すなわち神性と人性の結合は終わるのである。アダムが罪を犯す前の罪なき状態に回復されるのである（大争闘下 385、397、初代文集 452 参照）。再臨の時ではない！

我々の経験：



この結婚式が終わるとイエス・キリストは、我々を新婚旅行に連れていくために迎えにおいでになる（エペソ 5:27）。「み国を受けたのちに、彼はご自分の民を救うために、王の王、主の主として栄光のうちに来られる。そして彼らは天国で『アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に』つき、小羊の婚宴一

リセプションにあずかるのである（マタイ 8:1、ルカ 22:30 参照）」大争闘下 143。

いつ、キリストの神性と我々の人性の結合は完成されるのだろうか。

信者とキリストとの結合は、新生、聖化の段階では完成されない。あがないという言葉は、at-one-ment、一つになることであるが、**罪人である我々は、義であると同時に不義である。神性と人性が完全に結合されるのは、至聖所における罪の除去のとき**である。

我々がキリストを受け入れるとき、あがないを受ける（レビ記 4:35）。キリストとのつながりが始まる。しかし、裁きの時までは「**最後のあがない**」を経験しない（レビ記 16:27,30）。パウロは毎日の経験を「婚約」と表現している（2 コリント 11: 2）。つまり、イエス・キリストが大祭司として至聖所において「最後のあがない」をして下さる時、神性と人性の結合が完成されるのである。

十字架で犠牲としての贖罪は終わったが、今度は信者にそれが適用されなければならない。信者のあがないは、大祭司イエスの聖所と至聖所の働きでなされ、もろもろの罪が裁かれ、完全に清められ、除去される時、完成される（レビ記 16:30）。これは婚姻—結婚式でたとえられている。

「**小羊の婚姻の時**がきて、花嫁はその用意をしたからである。彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである。それから、御使はわたしに言った、『書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである』」。黙示録 19:7,8。

小羊の婚姻と小羊の婚宴は別の時である。

婚姻（結婚式）

至聖所における婚姻

「**婚姻は、人性と神性の結合**」実物教訓 287

「救い主は自ら人間の弱さを受け、罪のない生涯を送られたが、それは、人性の弱さのために勝利することができないと人間が恐れるようなことがないためであった。キリストはわたしたちが、『神の性質にあずかる者』となるために地上においでになった。そして、**人性が神性と結合**するとき、罪を犯さないということをその生涯は物語っている」ミニストーリー・オブ・ヒーリング 156。

「**キリストの生涯は人間がもし神の性質を持つならば、いったい何が出来るかを示した**。キリストが神からお受けになったものはみな、わたしたちも持つことができるものである。だから求めて受けることにしよう。... 神の約束なきことが全部与えられるように求めなさい」キリストの実物教訓 128、129。

「人としてキリストは、人性と神性とを結合する天来の電流によって、ご自分の人性が充電されるまで、神のみ座に嘆願された。世の人々にいのちを与えるために、イエスはたまえないまじわりを通して神からいのちを受けられた。**イエスの経験がわれわれの経験**となるのである」各時代の希望 中巻 101。

「キリストは、ご自身の模範によって、人が完全無欠になれることを明らかにした。人々は悪に抵抗する力を持つことができる。そして、地も死もまた地獄もその力を治めることはできない。それはキリストが勝利されたように勝利することのできる立場に人々を置く力である。神性と人性が、彼らの内で結合することができる (RH 1890年2月18日)」スタディバイブル新43。

日毎の経験は相対的である。もう二度とこの世俗の腐敗に汚されない、永遠に安全なものとなり、印されるのは、裁きの時においてである (国と指導者下 193-196 参照)。

大争闘下 142-144 を読んでみよう：

「2300日の終わりである1844年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみ前で、人類のための彼の最後の務めをなさる。それは、調査審判の働きであり、贖罪 at-one-ment の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさることである。

象徴的儀式においては、告白と悔い改めによって神の前に出て、その罪が罪祭の血によって聖所に移された者だけが、贖罪の日の儀式にあずかることができた。そのように、最終的な贖罪 final at-one-ment と調査審判の大いなる日に、審査されるのは、神の民と称する人々だけである。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっとあとで行われる。『さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか』(1ペテロ 4:17)。

婚姻は、キリストがみ国をお受けになることを意味している。み国の首都でありその代表である**聖なる都、新エルサレム**は、「**小羊の花嫁**」と呼ばれている。天使は、ヨハネに言った。「さあ、きなさい。**小羊の妻なる花嫁**を見せよう。」「この御使は、わたしを御霊に感じたまま、……連れて行き、聖都エルサレムが……神のみもとを出て天から下って来るのを見せてくれた」とヨハネは言っている(黙示録 21:9、10)。したがって、明らかに、**花嫁は聖都**を表し、花婿を迎えに出る**おとめたちは、教会の象徴**である。

花婿キリストは、戸を

開いて待つておられる！

「キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこれらるのである」実物教訓 47。

「招かれた人たちに言いなさい。食事の用意ができました。牛も肥えた獣もほふられて、すべての用意ができました。さあ、**婚姻**においでください」マタイ 22:4。

「わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。**小羊の婚姻の時**がきて、**花嫁はその用意をした**からである。彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」(黙示録 19:7、8)。用意が出来たら「小羊の婚宴 = リセプション」につく。どこで？

「**み国を受けたのちに、彼はご自分の民を救うために、王の王、主の主として栄光のうちに来られる。そして彼らは、天国で『アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に』つき、小羊の婚宴にあずかるのである** (マタイ 8:11、ルカ 22:30 参照)」大争闘下 143。

この至聖所の「最後のあがない」こそ、サタンが最も憎む真理であり、神の民に知らせないようにあらゆる策略を講じている(大争闘下 221 参照)。聖所の日毎の奉仕による罪の赦し、勝利の経験だけで終わるならば、宗教改革者たちの説いた真理となら異ならない。我々が必要としているのは「現代の真理」なのである(初代文集 137)！



創刊号 1988年2月発行
アンカーに寄せて / 自分で調べよ！ / 委ねられている使命
第2号 1988年8月発行
「完全」に対する不信 / 信徒からの声 / 人の性質 / 古代イスラエルと現代イスラエル / 神の信仰 / TV-現代の怪物 / 信仰から学ぶ教訓 / 重要でないことと重要なこと
第3号 1988年12月発行
1888年-勝利が敗北か？ / 信仰から学ぶ教訓 / アンカー堅固な土台 / 人の能力と才能 / 完全な品性に関する質問と反対 / 皆様に研究していただきたい宿題
第4号 1989年4月発行
キリストの性質 / 信仰から学ぶ教訓 / 人の創造 / レビ記にみる三天使の福音 / イエスの品性の美しさを仰ぎ見る / 1888年のメッセージとは何か
第5号 1990年3月発行
キリストの性質 / 信仰から学ぶ教訓 / 真理の宝石 / 瞑想 / 証の書の誤訳・適訳 / 最も重要な働き - 親業 / 時兆 / 経済大恐慌は来るか？ / 後の雨が今降っている？
第6号 1990年10月発行
最後のあがないの働き - 理解の重要性 / 聖所としての人間 / ビリー・グラハムと法王教 / クリスマスと努力 : 真理の宝石 / サムソン - SDAに何を教える？ / 質問: パプテスマ - 人数増加について / 小食 - 過食 - エジソン
第7号 1991年1月発行
選民を惑わさんと / ジニーン・ソートロン「夢と幻」 / 偽りの預言者、心の黙示 / パプテスマのヨハネとヘロデ
第8号 1991年6月発行
アドベンチストの最重要教理 / 破壊せよ、その基までも / 再臨信仰を破壊する企て / 生ける者のさばき / ダニエル 11章 - 「新しい世界秩序」への激動 / オーパス・デー - ローマ法王教のマフィア
第9号 1991年10月発行
イエスあるがままの真理 / しかし、暖かな愛、喜び、平和はなかった / ダニエル 11:40-45の研究 / 激動の嵐 - 最後の戦い / 宗教パワーと世界政治
第12号 1992年2月発行
セブンスデーアドベンチストと踊り / 信仰と行い / 最後の戦い / ダニエル 11:40 / 宗教パワーの台頭 / 多教派を真似る
第13号
預言の書 - 雅歌の研究の重要性 / キリストの先在 / 宝石、装飾品類 / 研究 - ダニエル書 11:40 / ヨーロッパ統合は成るか？ / 質問 1 ベテロ 3:18-22
第14号
変革時代のアドベンチズム / アドベンチズム (再臨運動) の変化 / 異離婚委員会への反論 / ユダヤ人はなぜイエスをメシヤとして拒んだか？ / 連載ダニエル 11:40 - 「終わりの時」
第15号 1994年12月発行
特集 - 聖書翻訳の流れ / どの聖書を選べばよいか？ / 別冊: 新共同訳に対する意見書
第16号 1995年6月発行
連発する諸事件の意味 / ヨシヤ記のポイント / 聖書に対する闘争
第17号 1996年5月発行
新共同訳は「より良い聖書」か？
第18号 1996年8月発行
各時代のカインとアベル / 預言の霊より参考引用文
第19号
パチカンが進化論認める - その意味 / SDAにおける進化論の流行、風靡 - その意味 / 6000年の地上歴史 / 背教のアルファとオメガ / 「1888年のメッセージ - 信仰による義認」グアム島セミナーに参加して
第20号
迫りくる戦い / 敵を知る / 時を知る / 備えを知る
第21号
天路歷程最終の道標 / キリスト再臨接近のしるし / ダニエル書研究の重要性 / マリアン・ベリー / ダニエル 12章の警告 / マリアン・ベリー
第22号
賢い者は悟るでしょう / タイムライン (時刻表) はどのように始まり終わるか？
第23号
アドベント (再臨) への待望は大失望になり得る！ / 紀元二千年コンピューター問題とクリスチャン品性の完成 / 法王、日曜休業令のための舞台装置をする！ / ライ病人村

第24号
警告無視の悲惨 / ダニエル 12章に関する議論 / 世界総会聖書研究所の論評に対するマリアン・ベリーの返答 / 1999年第1期の日本語安息日学校教課について / 読者からの便り
第25号
西暦 2000年を迎えるにあたって / クリスマスに思う / 確かな天声 - 預言の声 - / 真理の宝石
第26号
待望の聖書「スタディバイブル」 / 人間の像 / 二つの冠
第27号 2000年12月発行
クリスチャン品性の完成を信じる者は完全主義者か？ / ローマ・カトリックは変わったか？
第28号 2002年3月発行
星 (ひかり) に導かれて / ニューヨークテロ事件で見た恐怖と希望 / 鳥かごとイエスのあがない / 証
第29号 2002年12月発行
注目されるオリオン星座 / 上を見上げなさい / 十字架を掲げよ！ / アザゼルのやぎ / ふたたび神の宮となるために
第30号 2003年4月発行
紅海横断の真実 - 考古学が明かす驚くべき発見！ / 世界を湧かせる映画「ハリ・ポッター」 大衆を魅惑する現代心霊術！ / ただ師匠を見つめて / イエスを仰ぎつつ
第31号 2003年9月発行
どれが本当のシナイ山か？ / 隠れた世界最大のテロ集団とは？ / なぜ、私はセブンスデーアドベンチスト改革教会に加わらないか？
第32号 2004年1月発行
灰の都市、ソドム・ゴモラの発見！ / 真の医事伝道に生きて (自然療法) / ついに動き出したアメリカ - 国主義 - 20ドル紙幣の真相？
第33号 2004年8月発行
おとずれの時を知る / 小さな光と大きな光の意味 / 世界貿易センターの襲撃 - その歴史は動いた / イエズ会の狙い
第34号 2005年2月発行
海と大波のとどろき / 小さな光と大きな光 2部 / 礼拝と音楽 / 暗黒の勢力を打破する
第35号 2005年6月発行
新法王選出の意味 / 神の大時計 / 預言の研究と信仰 / 悪魔との戦い
第36号 2005年12月発行
終末のしるしの急カーブ / 十字架の勝利 / 品性の耐震強度 / 法王制の最終時代 / 黙示録の研究で覚えるべき重要なポイント
第37号 2006年6月発行
米国「十戒デー」祝典の意味 / 預言の霊は現代医学の100年も先端を行く / 新共同訳についての世界総会とのやり取り - そのいきさつ / バイナッブル・ストーリー
第38号 2006年12月発行
イエスを見失った SDA ? 見ざる、聞かざる、言わざる大真理 / 神の居住地 - 宣教師の散々の試練 / 証 - 翻って生きよ
第39号 2007年6月発行
聖書における女 Part1 / キリスト再臨の時を探る / 罪はどのように処理されるのか？ / 小石の波紋
第40号 2008年6月発行
デジタル社会の再臨信仰 / ああ、恵み、我にさえ及べり / 神様の学校 - 権利の放棄パート 2 / マザー・テレサ 40年間の信仰の危機
第41号 2008年12月発行
メガチャーチ (巨大教会) についての考察 / 天下分け目の大決戦！ / 七つの封印 / 王家の紋章
第42号 2009年1月発行
アメリカに変化「日の出」の時が来たか？ / マタイ 5章 48節 - 完全について / 古代エジプト史におけるヨセフ
第43号 2009年6月発行
創造主の一大傑作 - 人間 / 世界総会におけるピアン総理の最後の辞 / ゴスペルという名の策略 / イエズ会の日本戦略 / エディ婦人とジャックじいさん
第44号 2010年1月発行
荒らす憎むべきもの / 「各時代の争闘」にあっばれ！ / オバマ大統領と法王ベネディクト 16世の会見の意味 / 賢者への言葉 / 背教のオメガ
第45号 2010年7月発行
世界を操る真の黒幕 / 我が波乱万丈の人生 / 大いなる像とは

何か？ / 2010年春のセミナー報告 / 私のチルダイを吹き飛ばして下さった神様
第46号 2011年1月発行
世界支配を狙う二大勢力 / 「終わりの時」の諸事件 / セブンスデーアドベンチストの存在理由 - 最後の贖い - / 聖なる御言葉の歴史と移行 / ケログ博士の歴史「背教のアルファ」
第47号 2011年7月発行
立ち返れ日本！ 創造主に！ 東日本大震災？ 頻発する災害の意味！ / 「キリストとサタンの大争闘」のお薦め / 贖罪の犠牲と全能の仲保者の働き！ / 論点 / 「春の祈禱週読み物 (2011年)」を読んで感じたこと / 黙示録の研究 7つのラッパ / ジェレミーとラバたち / 銀細工師の物
第48号 2011年12月発行
クリスマス由来異教からカトリックへ、そして全世界へ / 新興教会 (エマージング・チャーチ) と霊性形成 (スピリチュアル・フォーメーション) / ささまざまな教会成長論の波 / 経済危機 / 意志？ 我々の選択、神の力 / 東日本の石が叫ぶ！ 大震災から学ぶ
第49号 2012年8月発行
近年の驚くべき考古学的発見！ / 信仰によって進む / 信仰による義認と第三天使の使命 - 第一部 - / 一つの石もほかの石の上に残されず / あしあと / 他
第50号 2013年1月発行
グローバリズム / 人の子の時に同様なことが起こるのである / 真の清め / 三天使の使命 第二部 / 罪深き独立
第51号 2013年7月発行
時のしるし / 新ローマ法王選出 / 大秦景教流行中国碑の真実 / 本能寺の変とイエズス会 / 日本人がキリスト教を受け入れにくくなった原因 / 我らの大祭司、諸王の王「イエス・キリスト」を上げ！ / 当面している危機 / 平和をもたらす道 / 驚くべく、くすしく創られた / 神の愛によるいやし
第52号 2014年1月発行
聖書の預言とニュース / アメリカの常識の変貌 / 終末の前兆 - 預言のアウトライン / 生ける者のさばきと後の雨の関係 / 主の幕屋の中へ / 勝ち誇る真理
第53号 2014年8月発行
驚くべき預言の成就 / 罪の除去 / 愛なる神の罪の処理のしかた / 船は無事に目的地に着くか？ / ビル・ヒューズ牧師による講演のダイジェスト
第54号 2015年1月発行
大医師イエス / 聖書から見るエジプト考古学 / 終わりの時はいつ来るのか？ / 増し加わる光
第55号 2015年8月発行
立ち上がるトマス / エレン・ホワイトとヨハネ / E.G. ホワイトとは誰か？ / イスラムとカトリックのつながり / 女性按手礼 / 個性の発達
第56号 2016年1月発行
第二次世界大戦 / 第三次世界大戦が始まった!? / 底いも知らぬ人の罪 / 御業完成の鍵 / 後の雨 / 大いなる叫びに含まれる経験 / 創造主の傑作 恐竜!!
第57号 2016年7月発行
地震災害は何を意味するか？ / 巡礼者たちの煩悶 / 完全論へのつまずき / 日本三文豪の煩悶
第58号 2017年1月発行
トランプ米大統領誕生の意味 / 取り戻そう！ 健康長寿 沖縄 / 歩く運動の効用 / つむじ風を刈り取る / 讃美歌に見る「霊魂不滅思想」
第59号 2017年8月発行
良心の自由の危機か / ネルソンの貢献 - 日本国憲法 / ジグソーパズルから学ぶ教訓 / アドベンチズムの動揺
第60号 2018年1月発行
宗教改革 500周年 / 信仰による義認 / キリストは神か人か / セブンスデーアドベンチストの中にも異教礼拝様式の侵入 / サンライズミニストリーの働き
第61号 2018年8月発行
キリストはいつから仲保者としての働きを開始したのか / 異邦人の時が満ちるとは / 偶像は神ではありません

サンライズミニストリーについて

サンライズミニストリーは、沖縄県今帰仁村に位置し、書籍やメディア、セミナー等を通して現代の私たちに必要な使命を伝えるキリスト教伝道機関です。当機関では、永遠の福音社—EGPA(韓国)を通じて2000年に「スタディバイブル日本語版」を発行し、好評を頂いております。その他、聖書に導く書物、日常生活や健康に関する書物、賛美歌 CD やメッセージの CD・DVD を発行しております。混迷する世界情勢の中で、私達は確かな光を必要としています。聖書の預言の光だけが私達に希望を与えます。「主とその恵みの言葉」に錨を下ろして最後の時代を生き残り、主イエスの再臨に備えましょう。また無料小冊子も多数配布しております。